

図書館
雑誌 The Library Journal
2024 1 Vol.118 No.1

●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

宇野亮一（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

オランダ王立図書館所蔵

「Mysio（猫）」

<https://www.europeana.eu/en/item/9200122>

/BibliographicResource_1000056112880



VOL.118 NO.1 CONTENTS

窓●変えるべきこと、継承していくこと ————— 茂出木理子 4

こらむ図書館の自由●

マイナンバーカードの図書館カード化について ————— 藏所和輝 7

●NEWS ————— 5

告知板 … 8／新聞切抜帳 … 10

●新館紹介 ————— 12

年頭所感 ————— 植松貞夫 13

新春エッセー●

図書館は森羅万象を教えてくれる！ ————— すゐの 14

* * *

【特集】 トピックスで追う図書館とその周辺

読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて — 神谷知栄 16

岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること

————— 長尾勝広 19

図書館ボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援

————— 柳川涼司・腰越未樹 22

仕合わせる幸せ ————— 長野源世 25

「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」研修会開催について

————— JLA 健康情報委員会 28

今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」-出版物および

デジタルコンテンツにルビ（ふりがな）の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み

————— 伊藤 豊 30

インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）2023京都大会と図書館

————— 井上靖代 32

「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」スタート ——— 小形 亮 34

霞が関だより ● 第242回

子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の取り組み事例について	文部科学省	37
清水町立図書館の取組 - 特性を活かした子ども読書活動の推進	文部科学省	37
『子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～』第2弾について	文部科学省	40

図書館員のおすすめ本 ● ㊥

ルポ新大久保 移民最前線都市を歩く	新井三枝子	42
花山院隊「偽官軍」事件 戊辰戦争下の封印された真相	家入義朗	42
ザ・ママの研究 増補新版	合屋月子	43
転職学 働くみんなの必修講義	小林はつき	43

北から南から ●

「子ども司書講座」を実施して	鈴江 夏	44
移動図書館を使った学校との連携 - 我孫子市民図書館：子どもの読書活動推進計画重点施策	穂村喜代子	46

* * *

● The Library Journal, January 2024

Special feature: Current issues and their effects on libraries

<i>City of Yokohama initiatives based on the Reading Barrier Free Act</i> (KAMIYA Chie)	16
<i>An exchange program for librarians at the Gifu City Library and the Shiojiri City Library</i> (NAGAO Katsuhiro)	19
<i>Reducing absenteeism from school and social disengagement as well as promoting self-sufficiency through volunteering at the library</i> (YANAGAWA Ryoji and KOSHIGOE Miki)	22
<i>Happiness connects people, things, and events</i> (NAGANO Gense)	25
<i>Workshop on Managing Health Collections and Evaluating Health Information</i> (Japan Library Association Health Information Committee)	28
<i>Rethinking furigana - the Rubi Foundation's efforts to promote the use of furigana in printed and digital content</i> (ITO Yutaka)	30
<i>The 2023 Internet Governance Forum (IGF) in Kyoto and libraries</i> (INOUE Yasuyo)	32
<i>A Liaison Group for Improving Irregular Employment at Libraries</i> (OGATA Ryo)	34

● 日図協図書館新着案内	51
事務局カレンダー	59
● 編集手帳	60

*「れふあれんす三題断」「ウチの図書館お宝紹介!」「小規模図書館奮戦記」「協会通信」は休載させていただきました。

● 図書館雑誌 2月号予告	59
---------------	----

● 発行者

公益社団法人日本図書館協会 ©2024
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電 話 (03)3523-0811 〈代表〉
直 通 (03)3523-0816 〈編集部〉
F A X (03)3523-0841 〈代表〉
〈日図協ホームページ URL〉
<https://www.jla.or.jp>
〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉
mailmaga@jla.or.jp

*本文は中性紙（冷水抽出 pH8.1）を使用



変えるべきこと、継承していくこと



茂出木理子

新年早々少し古い話題で恐縮ですが、二〇二二年九月二八日に国立大学図書館協会主催で開催されたシンポジウム「大学図書館はどこへ向かう? ..変えるべきこと、継承していくこと」の話題から始めさせていただきます。

このシンポジウムでは、京都大学図書館機構長（当時）引原隆士先生の基調講演の後、館長（教員）二名と筆者を含んで管理職職員三名によるパネルディスカッションが行われました。ハイブリッド開催で協会員以外でも参加が可能ということもあり、オンライン、現地参加合わせて七〇〇名弱もの参加がありました。

パネルディスカッションでは、サブタイトルの「変えるべきこと、継承していくこと」について、各自の見解を述べるというのがクライマックスでしたが、そこで私が言い放った言葉が「変えていいことは全て。継承すべきことは何もない」です。パネラーを引き受けてからずっと自問自答していたことですが、当日、会場に向かう途中で言葉が降りてきたのです。ずいぶん大胆なことを言ってしまったのですが、これぐらい思い切ったことを

忌憚なく言う役目がベテランにはあるとも考えています。もちろん、大学図書館には長年受け継いできた貴重な財産として蔵書コレクションがあり、充実させてきたサービスがあります。これらが全て無駄で、捨ててしまえという意味ではありません。現場の職員には「本当に大事にせねばならぬことは何?」ということを真剣に我が事として考えてほしい。「大学図書館はどこへ向かう?」と誰かのご意見や答えをただ待っていないでほしいという思いが、そのストレートな言葉になりました。

朝ドラ『らんまん』でも、主人公万太郎の姉の綾が「その先に行くには（これまでどおりではない）何か新しいやり方が必要ながやねえ」と語るシーンが、私にはとても印象的でした。

新年を迎え、「今年こそ変わるぞ!」と決意された方も多いでしょう。しかし、気がつくところまで引きずられてしまいそうな時、どうぞ思い出してください。「変えていいことは全て。継承すべきことは何もない」と躊躇なく言い放った先輩・仲間がいることを。

（もできりこ／東京工業大学研究・産学連携本部）

第109回全国図書館大会岩手大会

「理想郷 “イーハトーブ” で本当の幸せを考える～希望ある未来は図書館とともに～」開催

2023年11月16日(木)～17日(金)、岩手県盛岡市の盛岡地域交流センター(マリオス)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に第109回全国図書館大会岩手大会が行われた。4年ぶりの対面による全国図書館大会開催で、地元大会実行委員会の多大な尽力により、成功の裡に終了した。

16日の開会式ではオープニングアトラクションとして、岩手県立不来方高等学校音楽部の合唱が披露された。佐藤一男岩手県教育委員会教育長の開会の言葉、達増拓也岩手県知事、植松貞夫日本図書館協会理事長の主催者挨拶、内館茂盛岡市長(代理:多田英史盛岡市教育長)の歓迎の挨拶、文部科学大臣(代読)、国立国会

図書館長(代読)の祝辞があり、第39回日本図書館協会建築賞の表彰が行われた。受賞館は板橋区立中央図書館。続いて植松理事長の基調報告が行われ、1年を振り返り、図書館振興の今後について語られた。記念講演は本間希樹国立天文台水沢 VLBI 観測所所長/教授の「岩手発 ブラックホール行き銀河鉄道の旅」。天文台の歴史や岩手出身の偉人・宮沢賢治との関係、天文学研究の最新の動向、図書館への期待等、興味をそそられる内容の講演が行われた。

夕刻には懇親交流会が催され、会場いっぱいのにぎわいとなった。

2日目の17日は午前・午後に分かれ、館種やテーマごとに14の分科会が実施され、開催地・岩手県内ほか

多くの図書館関係者がさまざまな取り組みや活動について発表や報告を行った。各分科会、あわせて開催された各企業・団体による協賛展示とも盛況であり、久しぶりの対面で歓談する様子が随所に見られた。分科会等の詳細は本誌2月号で報告する。

なお、来年の第110回全国図書館大会は、2024年11月頃にオンライン形式(一部対面形式)で、長崎県長崎市で行われる予定となっている。



▲いわて県民情報交流センター

▶「NAGOYA メタバース図書館」を期間限定で設置

名古屋市図書館では、開館100周年を記念し「NAGOYA メタバース図書館」を2023年11月30日から2024年3月31日まで期間限定で設置している。メタバースのプラットフォーム「Spatial」に過去・現代・未来の図書館を再現し、自身の分身であるアバターを操作して館内を回することで、図書館のいろいろな楽しみ方を体験できる。

11月30日にオープンした現代の図書館は「読書を楽しむ」テーマとしており、3階まであるガラス張りの館内で、名作をメタバース空間ならではの方法で読むことや、名古屋市

図書館の司書が語るストーリーテリングを聞くことができる。

1月31日にオープンする過去の図書館は、名古屋空襲で焼失した100年前の市立名古屋図書館を再現し、鶴舞中央図書館が所蔵する貴重資料を見ることができるようにする。未来の図書館では、子どもたちが楽しめるコーナーを設置するとともに館内でビブリオバトル等のイベントを開催する。

また、館内に司書のアバターがいるときは、手を振るなどしてコミュニケーションを楽しむことができ、利用者同士チャットで会話することも可能である。

NAGOYA メタバース図書館は、

パソコンやスマートフォンがあれば、いつでも無料で入館可能(通信料は利用者が負担)。スマートフォンからのアクセスはアプリが必要である。アクセスは下記名古屋市図書館ホームページから。

https://www.library.city.nagoya.jp/oshirase/topics_event/entries/20231128_01.html



(情報提供:名古屋市図書館)

▶「官報の発行に関する法律」を公布

2023年12月13日、「官報の発行に関する法律」(法律第85号)が公布され

た。

この法律は、官報の発行主体、掲載事項その他官報の発行に関する事項を定めるものであり、今後官報の発行方法は、内閣府令で定める期間中インターネット上のウェブサイトに掲載することとしている。当該期間が経過した後、これらの電磁的記録は国立公文書館に移管される。

第9条第2項においては、都道府県の設置する図書館およびその他施設でインターネット上に公開される官報を閲覧できるよう、内閣総理大臣が支援するよう努めることが明示されている。また、インターネットを利用することができない者への配慮の観点から、電磁的官報記録の掲示、書面等による官報掲載事項の提供等を行うこととしている（その際は手数料が必要）。施行日は、公布の日から起算して1年6か月を超えない範囲において政令で定める日とされている。

また、同日「官報の発行に関する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」（法律第86号）も公布された。これにより、図書館法第9条（政府は、都道府県の設置する図書館に対し、官報その他一般公衆に対する広報の用に供せられる独立行政法人国立印刷局の刊行物を二部提供するものとする。）の「官報その他」が削除された。この法律の施行日は、「官報の発行に関する法律」の施行の日からとなる。

インターネット版官報：令和5年12月13日（号外 第260号）目次
<https://kanpou.npb.go.jp/20231213/20231213g00260/20231213g002600000f.html>

インターネット版官報：令和5年12月13日（号外 第260号）p.14
<https://kanpou.npb.go.jp/20231213/20231213g00260/20231213g002600014f.html>

▶「第44回図書館建築研修会」開催

日本図書館協会主催の第44回図書館建築研修会が「図書館サービスと建築の相関」をテーマに、12月2日～3日、石川県立図書館（石川県金沢市、2022年7月開館）を会場に、約80名の参加を得て対面式で開催された。会初日は、新たな県立図書館像に基づく管理運営とサービスについて、田村俊作館長と佐野寛子経営管理課長、設計と条件の建築空間化について設計者の仙田満氏、ソフトとハードをつなぐ役割について石川県新図書館整備推進委員であった嘉門佳顕氏、4氏の講演と施設見学、2日目は希望者が野々市市立図書館などを見学した。参加者からは、多くを学ぶことができたとの評価を得た。

▶2023年度災害等により被災した図書館等への助成決定

日本図書館協会図書館災害対策委員会は、2023年度の災害等により被災した図書館等への助成の申請について、その審査結果を理事長に報告し、助成を決定した。9月29日の受付期限までに、宮城県、秋田県、福島県、福岡県、沖縄県の5県、22機関から申請があった。館種別では、公共図書館7件、学校図書館14件、読書施設1件、災害別では令和5年豪雨等8件、令和4年3月16日福島県沖地震6件、その他（東日本大震災等）8件であった。助成先は次の12機関である。

なお、助成総額は図書館災害への

指定寄附金等を原資とする288万円である。

＜令和5年豪雨等（梅雨前線、台風2号、6号、13号）＞

秋田市立中央図書館明徳館、学校法人淡窓学園（筑紫野中央幼稚園）、久留米市立大橋小学校、西原町立図書館、久留米市立田主丸図書館、いわき市立宮小学校、聖霊女子短期大学付属高等学校

＜令和4年3月16日福島県沖地震＞

新地町図書館、宮城県泉松陵高等学校、福島市立図書館、松島町勤労青少年ホーム図書室、宮城県迫桜高等学校

▶文部科学省、「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」を実施

文部科学省では、読書離れの傾向がみられる中高生世代が読書に親しむ機会が増えることをねらいに、本年10月より、「子供の学び応援サイト」に特設ページを設け、著名人による子供たちへのおすすめ本とメッセージや読書関係団体の取り組みを紹介している。

読書週間（10月27日）に第1弾を実施し、12月より第2弾として、スポーツ、文化、教育分野で活躍する9名がおすすめ本を紹介している。合わせて、＜スポーツ×読書＞をテーマに、昨年、中国・杭州で開催されたアジア大会の選手村で並んだブックリストも公開されている。

本誌「霞が関だより」も参照。
 文部科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」：https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/campaign_2023.html

◆ NEWS ◆

▶ 全国 SLA, 2023年度「学校図書館調査」結果を公開

全国学校図書館協議会(全国SLA)では2023年6月に全国の小・中・高校から都道府県ごとに3%の学校を無作為に抽出して調査を行い、小学校302校、中学校179校、高校110校から回答を得た。毎年調査を行っている「蔵書」「経費」のほか、今回の調査では「開館状況」「図書の貸出し」「図書の廃棄」「学校図書館活用」「読書指導年間計画」「図書委員会の活動」の項目が加わっている。

調査結果では、2023年度の1校あたりの平均蔵書冊数は、小学校9,965冊、中学校12,244冊、高等学校26,534冊、2022年度決算の平均図書購入費(1校あたり)は、小学校46.8万円、中学校65.7万円、高等学校76.8万円となっている。

全国SLAのHP:「お知らせ」(2023年12月6日付) <https://www.j-sla.or.jp/news/sn/>

「学校図書館調査」の結果: <https://www.j-sla.or.jp/material/research/gakutotyousa.html>

▶ 「令和2年度 学校図書館の現状に関する調査」へ意見書を提出

学校図書館を考える全国連絡会は、2023年2月12日にオンラインで開催した第2回交流会と7月16日にハイブリッドで開催した集会で、解説をしていただいた田中紘一氏の問題提起と参加者のご意見を集約し、「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」の改善を求める意見書を作成した。

11月7日に文部科学省総合教育政策局地域学習推進課の図書館・学校図書館振興室の担当者と面談を行い

こらむ 図書館の 自由

マイナンバーカードの 図書館カード化について

蔵所和輝

さまざまなトラブルの発生が指摘されつつも、政府はマイナンバーカード(以下「マイナカード」)の普及を強力に推進している。マイナカードには民間も含めた幅広い活用が期待されているが、その中には図書館カードとしての活用方法も含まれている。

なるほど、施策の方向性に限ってみると、マイナカードの普及推進は首肯できる部分もある。人手不足が深刻化する日本では、官民間わず効率化ひいては省人化が強く求められている。日常的に生じる本人確認手続きを簡素化できるのであれば、マイナカードを普及させる意義は大きい。

とはいえ、現状あまりに普及ありきで話が進みすぎていないだろうか。マイナカードを図書館カードとして利用した場合の貸出履歴(ログ)の管理法には依然不透明さがつきまとう。読書プライバシーの観点からの懸念は払拭できていない。そもそも、マイナカードを図書館カード化したところで、旧来の図書館カードの廃止には直結しない。職員の手続き負担が増加することで、却ってサービスの低下が生じるおそれも指摘されている。マイナカードを活用した電子図書館サービス等も、さまざまな事情でマイナカードを申請しない利用者や申請できない利用者が現実存在していることを踏まえると、手放しでは賛同できない。図書館は公共施設である以上、サービスの格差が生じる事態は避ける必要がある。図書館サービスの質を高めるためというより、マイナカードの普及が先にあつて、その大義名分に図書館カード化が利用されている構図が顕著である。

思うに、「図書館の自由に関する宣言」が目指してきたものは、何よりもまず利用者目線で信頼できる図書館ではなかっただろうか。デジタル化によって社会をより良いものにしていく取り組み自体は否定しないが、その過程で利用者から図書館への信頼が損なわれる事態は看過しがたい。利用者本位の視点が欠如したマイナカードの図書館カード化には慎重さを求めたい。

(くらしよ かずき: JLA 図書館の自由委員会、国立国会図書館)

意見書を提出、回答を得た。

詳細は以下HPを参照。

学校図書館を考える全国連絡会HP

: <https://www.open-school-librarian.jp>

▶ 学校図書館を考える全国連絡会、

『ひらこう! 学校図書館 第26回集会』記録誌を刊行

2023年7月8日(土)に日本図書館協会会館で開催された第26回集会の

記録誌が刊行された。

内容：記念講演「いま求められる学校図書館専門職員制度－学図法70周年を的確な施策の決断の年に－」塩見昇（大阪教育大学名誉教授・元日本図書館協会理事長）、問題提起「『学校図書館の現状に関する調査』（平成4年度～令和2年度）結果から」田中絃一（学校図書館を考える全国連絡会世話人）、アピール文、各地の市民団体から寄せられた情報、学校図書館問題研究会・東京支部作成「東京都公立小・中学校学校司書（図書館職員）配置状況調査2023年」（B5判・94p 価額700円）

お申し込みは、学校図書館を考える全国連絡会 HP（<https://www.open-school-library.jp>）を参照。

告知板

●つどい

■図書館基礎講座オンライン2023

雇用のかたちや仕事の内容、経験年数などを問わず、図書館で働くすべての人のための講座です。図書館の現場に役立つ知識を学べます。どうぞご参加ください。

主催：日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会

日時：2月5日（月）・2月19日（月）
10:00-15:00

開催方法：Zoomによるオンライン開催

内容：2月5日＝10:00-12:00 図書館の基礎（熊谷慎一郎：宮城県図書館）、13:00-15:00 現代の図書館の動向（小曾川真貴：中京大

学・愛知淑徳大学）／2月19日＝10:00-12:00 出版流通と資料選択（村上さつき：松戸市立図書館）、13:00-15:00 図書館の自由（山口真也：日本図書館協会図書館の自由委員会委員長）

対象：全国の非正規雇用職員および図書館に関心のある方

定員：各日80名

参加費：1日500円

申込方法：2日間もしくは1日単位で、下記申込フォームから申し込んでください。

<https://forms.gle/U8VfPUbefV6ct9pK6>

※お申し込みをいただいた方に、受講料の振込先をお知らせします。

※振込状況を確認後、あらためて参加アドレス等をお知らせします。

申込締切：1月31日（水）

問合先：日本図書館協会事務局・星川 ☎03-3523-0816 E-mail: kaku@jla.or.jp

※受講にあたっては、インターネット接続環境とPCが必要です。

※事務局からの連絡は原則としてEメールで行います。

PCからのEメールが受信できるように設定してください。

■令和5年度徳島県図書館大会・日本図書館協会四国ブロックの集い
テーマ：「図書館とSDGs－未来のためにできること－」

主催：徳島県公共図書館協議会

共催：徳島県立図書館

後援：日本図書館協会

日時：2月15日（木）10:30-15:00

会場：徳島県文化の森総合公園内徳島県立二十一世紀館 1階イベントホール（対面とZoomによるオ

ンライン配信とのハイブリッド方式で実施）

内容：午前の部講演「すべての人を本の世界へ～オーテピア高知声と点字の図書館の読書バリアフリーサービス～」(坂本康久：オーテピア声と点字の図書館前館長)、午後の部講演「絵本でSDGs～今すぐ出来ることを考えよう～」(朝日仁美：絵本でSDGs推進協会代表理事、糸魚川市学校司書、絵本専門士、JPIC読書アドバイザー)

定員：100名（会場50名、オンライン50名）

参加費：無料

申込方法：徳島県立図書館 HP（<http://library.bunmori.tokushima.jp/>）の大会案内ページの参加申込書の書式より、参加申込書をFAXかEメールで以下申込先までお送りください。

申込先：徳島県立図書館 企画振興担当 FAX.088-668-6904 E-mail: lib_kyoryoku@bunmori.tokushima.jp

申込締切：1月31日（水）

問合先：徳島県立図書館 企画振興担当（☎088-668-3500 FAX.088-668-6904 E-mail: lib_kyoryoku@bunmori.tokushima.jp）

■多摩市の図書館 つくる会からともに育てる会へ～講演会「図書館のきょう・今日・あす2024」～「多摩市に中央図書館をつくる会」

は、2000年から活動を続けてきて、2023年7月1日に念願の多摩市立中央図書館がオープンしました。これにより、つくる会は大きな目標のひとつを達成し、7月末に解散という形をとりました。これからは図書館

NEWS

を見守り応援することを目指して、「多摩市の図書館をともに育てる会」を10月22日に立ち上げました。

多くの市民とつながり、行政ともコミュニケーションをとりながら、長年活動続けてきた多摩市の図書館運動の今までとこれからを新旧の代表に語っていただきます。

会場参加だけでなく、オンライン配信 (Zoom) の併用を予定しています。

主催：としょかん文庫・友の会

講師：青木洋子 (多摩市に中央図書館をつくる会元代表)、大石正人 (多摩市の図書館をともに育てる会代表)

日時：2月3日(土) 14:00-16:00 (受付開始13:30～)

会場：日本図書館協会研修室 (東京都中央区新川1-11-14) ※当日の問合先 ☎090-3501-5332 (西村)

交通：東京メトロ東西線、日比谷線 茅場町駅から徒歩約10分

参加費：500円 (会場参加：当日 オンライン参加希望者：事前振込 ※申込時のEメールアドレス宛に振込先等をお知らせします)

申込方法：氏名、所属、連絡先、会場参加・オンライン参加のいずれかを明記して、Eメール、FAX、または、はがきで申し込み

申込先：E-mail：okuizumi@mse.biglobe.ne.jp (奥泉) ※送信件名に「講演会参加」と明記 FAX.03-3719-3705 (奥泉) はがき：〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-2 グレイズビル10階102号室 図書館問題研究会気付としょかん文庫・友の会

申込締切：1月25日(木)

※オンライン参加希望者には、入金を確認後、開催前日までに申込時のメールアドレス宛に、「Zoom招待メール」(ミーティングID)をお送りします。

■SLIL WS#4「探究学習を促す、支える。ーIBの学校図書館活用事例から考えるコラボレーションー」

School Library for Inquiry Learning (SLIL：スリル)は探究的な学びを支援する学校図書館について考えていく研究会です。

岡山理科大学でIB教員プログラムを担当されている木村光宏氏のワークショップです。

40分の講演の後、80分のワークショップ、30分の全体共有と討議をファシリテートしていただきます。

探究学習に関心をお持ちの教師、学校図書館員、教育行政関係者、市民、研究者等のご参加をお待ちします。

日時：2月17日(土) 13:00-16:10

開催方法：Zoomによるオンライン会議方式、事前申し込み制、参加費500円 (返金対応なし)

申込締切：2024年2月11日(日)23:55まで

申込方法：<https://slilws4.peatix.com>を参照

詳細：SLIL (スリル) HP <https://sites.google.com/view/slil-inquiry/home>

●その他

◆『竹内愼の言葉ーもちより、わけあうー』を一緒に作りましょう

竹内愼さんが亡くなって2年。竹内さんの生き方、図書館への想いや考え方などに、私たちは多くのこと

を学んできました。その深みやユーモアのある言葉を手元に置き、また、多くの人に広めたいと考えました。

そこで、「みんなに伝えたい竹内愼の言葉」を一冊にまとめます。あなたもぜひ、講演会や雑談の中での語録、あるいは著作、手紙の中の一節、およびそのエピソードをご寄稿いただき、まわりの人に手渡す仲間になってください。加えて、この企画をまわりの人にお知らせください。

○寄稿を基に文庫サイズの本を、寄稿者の経費負担で制作します。

○作成手順

1. 寄稿者募集：2024年3月31日締切

Google フォーム (下のQRコードから入れます) に所定の事項を記入してお申し込みください。寄稿者に、原稿提出用フォーム、入金方法をお知らせします。

2. 原稿提出：2024年5月31日締切

3. 出版：2024年10月末 (予定)

○料金：寄稿者2,500円 (1冊+送料込み)、配布用1,000円@冊+送料実費

※寄稿申し込みと原稿提出をGoogle フォーム以外でご希望される方は、下記までEメールでお知らせください。

※本文見本と寄稿申込のGoogle フォームは以下から

<https://forms.gle/vVaEZnj7BFbm9JRh6>



問合先：『竹内愼の言葉』編集委員会 担当：養田明子 E-mail：ta.keuchimessage@gmail.com

新聞切抜帳

●全国

▶[ひらく日本の大学 朝日新聞・河合塾共同調査]命名権売却 物価高に一策 学外から収入 企業は学生にPR [ネーミングライツ 九州大学附属図書館中央図書館など] / 私[立]大[学], 学費値上げの波光熱費・物価高 大規模大[学]中心 国立大[学]では「電気止めて」

(朝日10/29)

▶トラック図書館[「青空図書館」] グッドデザイン賞 愛宕自動車[工業] ソーラーパネルと蓄電池搭載 災害時も活躍 (日刊工業11/2)

▶[国立]国会図書館「デジタルシフト」加速 ネットでの閲覧個人でも 所蔵資料も電子化作業 「収集保存」のイメージから脱皮

(朝日11/3)

▶[読書バリアフリーの現状と展望] 出版界の視点 「一過性で終わらせたくない」 ABSC運営部会副部長 落合早苗さん 「誰もが『当事者』たり得る」 電子書籍の自動音声普及に注力 / 支援者の視点 本を見て、聞いて、触って 図書館に「りんごの棚」 点字本、大活字本、布絵本…一つに [りんごプロジェクト] / 障害者の視点 めくるのに苦勞 破ってしまった 脳性まひの男性「本に苦手意識」 翻訳の人材が不足 点字・音声ネット図書館 [サピエ図書館] 2万人登録

(西日本11/3)

▶プロが選書 読書お助け[選書サービス「フライヤー」] 読みたい本が分からない「月に0冊」半数 4千字に要約「感銘」を共有 著名人から子供たちへ おすすめの1冊を紹介[文部科学省] (産経11/6)

▶学校図書館の管理システム 京セラ系、50カ所目指す [「ELCIELO for School」] (日経産業11/14)

▶21歳、6割が本読まず 22年文[部]科[学]省調査 「『21世紀出生児縦断調査』」 (毎日11/20)

●北海道・東北

▶北[海道]大[学]構内[札幌市]にこども本の森 建築家・安藤忠雄氏が各地に開設 (朝日[北海道]11/8)

▶全国図書館大会[岩手]県初開催 盛岡[市] 4年ぶり対面形式 (読売[岩手]11/17, 関連1紙)

▶電子図書館広がる [福島]県内6市村[福島市, 郡山市, いわき市, 須賀川市, 伊達市, 昭和村]導入 児童生徒にID 学習利用増「紙の3倍」書籍価格課題 蔵書の充実が鍵 (福島民友10/6)

▶矢祭[もったいない図書館]「どこでも読書」本の交換スタンド11カ所借りて、もらって、寄贈もOK [福島県矢祭町] (福島民友11/9)

●関東

▶[ハッシュタグ #]こだわり空間で本に没頭 読書スポット首都圏に続々 異文化を体験[本で旅するVia] / 地中図書館[クルックフィールズ] [宵イ茶屋文庫, 湯河原惣湯] (日経[首都圏]10/12)

▶[茨城県立]図書館と創業支援連携 日本[政策金融]公庫水戸[支店] 地域に情報発信 (日刊工業11/16, 関連1紙)

▶県立施設[県]体育館跡地に [県立]図書館など 一体的再整備 検討委[委員会]了承 [栃木県] (読売[栃木]11/1)

▶前橋[市]中心[市]街[地]の再開発, 西街区 ジンズHDや図書館入居 東街区 小中一貫校やマンション (日経[首都圏]11/14)

▶閉館の映画館[名古屋シネマテーク]資料継ぐ 群馬[県]のミニシアター[シネマテークたかさき 志尾睦子]総支配人「文化残す役割」1万点公開準備 (日経11/25夕)

▶バリアフリー本 読書楽しく 大

活字, 布素材, 補助具…誰もが便利 図書館の導入増「知る」ことで普及 [豊島区立中央図書館]

(熊本日日10/20)

▶外出わくわく介護予防 [東京]都内, シニア交流の促進図る フレンチ堪能 会話に弾み 港区社[会福祉]協議会 メーク教室 気持ち明るく [江戸川区立]西葛西図書館

(日経[首都圏]10/27)

▶国立劇場の図書室休室「当面の間」伝統芸能資料閲覧できず

(読売10/27夕)

▶板橋[区]絵本の街に 区がPR 世界の絵本3万冊 印刷製本業盛ん 長年の国際交流[板橋区立中央図書館] いたばしボローニャ絵本館 大人も身近に (読売[多摩]11/17)

▶[新聞@スクール]小中全校に新聞教[育]委[員会]一括契約で 葛飾区が新方式 授業で紙面活用進む 公立校の図書館に 他の自治体に波及へ 多様な見方知る新聞配備は有効 葛飾区長・青木克徳氏(74) 新聞使う葛飾区の実践例 読解力楽しくアップ [区立]西亀有小[学校] 教室で読み視野拡大 [区立]北野小[学校] 切り抜き読み比べ [区立]綾瀬中[学校]

(読売11/22, 関連3紙)

▶図書館像策定へ要望書 [横浜市「図書館ビジョンを考える市民連絡会」] (読売[横浜]11/15)

▶小中学校の太陽光発電電力 横浜市, 余剰を[市中央]図書館へ

(日経[首都圏]11/16, 関連3紙)

●甲信越・北陸

▶あいの風[とやま鉄道高岡]駅構内に本棚[どこでも図書館] [高岡]市[立]中央図書館 「待ち時間に読書を」 (北日本10/7)

▶大町の魅力再発見し発信 ウィキペディア編集WS [ウィキペディアタウン in 大町市 市立大町図書館, 県立長野図書館など]

(大系タイムス10/22)

NEWS

▶「松本パルコ」閉店後で方針 「松本市」と運営会社、協議 上層階は市図書館 低層に新商業施設

(朝日〈長野〉11/23, 関連1紙)

●東海

▶岐阜大[学]の一角に命名権 大阪[市]のシステム開発「Sky」と契約 [図書館1階自主学习スペースを「Sky ACADEMIC CORE」と命名]

(中日10/14)

▶「いいネ! 岐阜」無印良品店舗中央に[市立カニミライブ]図書館 可児[市]にあすオープン 健康、子育て…若者志向の蔵書 肌年齢測定機も

(中日〈可茂〉11/22, 関連1紙)

▶競争入札不調の伊東[市]・新図書館 市、規模縮小し再設計へ 25年7月着工めざす (朝日〈静岡〉11/28)

▶[JR]新堂駅前複合施設[SHINDO YARDS]オープン DMG 森精機が整備 図書館[伊賀市上野図書館]いがま図書館や伊賀市役所支所

(朝日〈三重・伊賀〉11/7, 関連1紙)

●関西

▶江北図書館 国登録有形文化財に 長浜[市]地域住民ら100年運営 意匠凝らした擬洋風建築物

(朝日〈滋賀〉11/25)

▶あやテラス25日オープン 図書館・地域交流・子育て交流の複合施設 綾部市整備 「[JR 綾部]駅北側の都市機能集約」

(京都〈両丹〉11/23)

▶文化・子育て施設 26日にオープン 茨城[市]「おにクル」[おにクルぶっくばーくなど]

(朝日〈大阪〉11/22)

▶妊婦さんに本郵送します 月に1度、15冊まで貸し出し可 [明石]市立図書館が新サービス[「らくママ便」] 出産経験職員の意見参考に

「読書楽しんで」(神戸〈明石〉11/4)

▶推し愛全部語れるマンガ部 伊丹市立図書館 月1で持ち寄り 顧問はあの作者[倉田よしみさん] 新たな

な楽しみ方 (朝日〈兵庫〉11/19)

●中国・四国

▶[図書館出合いの広場]「本」「人」「地域」に出会う場所 北栄町図書館 30周年を迎えました [鳥取県]

(日本海10/31, 関連1紙)

▶[奥出雲]おろち号の軌跡絵本に 雲南[市]の3図書館[木次、加茂、大東図書館]司書が制作

(山陰中央新報11/23)

▶[岡山]県立図書館3年連続全国[都道府県立図書館]一 22年度入館者、貸出冊数 コロナ禍から早期回復

(山陽10/3)

▶自動車図書館岩国[市]で快走中 22年度貸し出し8万7400冊 5年で1.2倍 道幅狭い地域に 来夏「軽トラ」導入

(中国〈山口〉10/18)

▶愛されて 来館1000万人 周南の市立[徳山駅前]図書館 5年10カ月で

(朝日〈山口〉11/22)

▶図書館の本40冊破られる 高松市中央[図書館、瓦町サテライト] ミステリー小説結末読めず 警告や巡回強化 被害届検討も

(読売〈香川〉11/16, 関連3紙)

●九州・沖縄

▶[北九州]市立若松図書館の指定管理候補選定[TRC・ACE共同事業体] 北九州市教[育]委[委員会]

(読売〈北九州〉11/17, 関連1紙)

▶[多久物語] [多久]市立図書館100年 炭鉱王が寄付 学問の伝統守る

(佐賀10/18)

▶明るい雰囲気 居場所にも 長崎市 学校司書導入15年 「ばらかもん」「弱虫ペダル」… ニーズ対応に 試行錯誤 正しい情報 知の拠点に [市立蚊焼小学校、市立西浦上中学校、市立橋中学校、市立東長崎中学校]

(長崎10/19)

▶菊池神社に思い寄せ 史料や宝高画像で後世に [菊池]市立図書館がデジタル化

(熊本日日10/20)

▶「松井家文書」後世に残せ 熊[本]

大[学附属]図書館がCF 目標300万円 史料の保全、修復へ 来年1月下旬まで

(西日本〈熊本〉11/18, 関連1紙)

▶図書館名「こども本の森 熊本」 安藤忠雄さん設計 [熊本]県、名誉館長に宮崎美子さん

(熊本日日11/29)

▶[相良村]相良中[学校]「朝の読書大賞」 毎朝20分「集中して楽しく」 [熊本県]

(熊本日日11/24)

▶別府市の新図書館再入札 予定価格5億円超引き上げ 工事費急騰で方針 ぎりぎりの判断か 自治体財務に詳しい日本文理大[学]の長崎浩介准教授(地方公会計)の話

(大分合同10/31)

▶[JR]豊後竹田駅「リサイクル文庫」閉鎖 本の交流3500冊 「待ち時間充実」全国からお礼

(大分合同11/8)

▶図書館6割 収蔵率90%超 [宮崎]県内公立 スペース逼迫 資料保管、貸し出し影響も / 書架増設、除籍 対策限界 県内図書館収蔵率逼迫 「デジタル化」費用厳しく

[宮崎県立図書館、宮崎市立図書館、椎葉村図書館「ぶん文 Bun」]

(宮崎日日10/23)

▶電子図書館 延岡市でも 来月3日から

(朝日〈宮崎〉10/27)

▶宮崎市が県内初開設、ネットで読書 「子ども電子図書館」好調 [市内全公立小中生に]ID配り閲覧増、コスト課題

(宮崎日日11/5)

▶坊津[地域]交流プラザ[(仮称)]着工 南さつま[市] 支所や図書館一体化

(南日本11/6)

今月も石井一郎様、岸本修様、桑原芳哉様、榎野みな様、松野高德様および山梨県立図書館、県立長野図書館、小郡市立図書館の皆様より記事の提供を受けました。ありがとうございました。

新館紹介



開館 2022年
11月22日
延床面積
865㎡

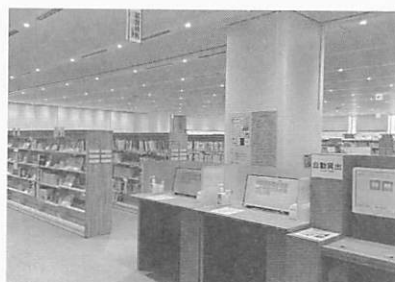
吹田市立北千里図書館 (大阪)

設計：内藤・大和建築設計共同企業体

〒565-0874 吹田市古江台3-8-1

☎06-6834-2922

▶木材を使用した公民館、児童センターとの複合施設に移転した。蔵書数を増やし、読書や調べもののできる閲覧席を設けており、ゆっくり滞在できるようになった。
(寺坂美香)



開館 2022年
12月15日
延床面積
1,683㎡

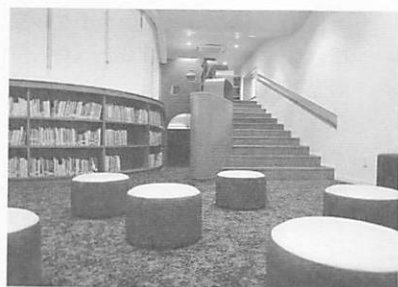
香取市立佐原中央図書館 (千葉)

設計：INA 新建築研究所

〒287-0003 香取市佐原イ134-3

☎0478-55-1343

▶最大所蔵冊数は約137千冊。自動貸出機、読書通帳機を設置し22時まで貸出可能。図書館フロアに限らず施設内どこでも本を読むことができる全館図書館です。
(板倉安成)



開館 2022年
12月1日
延床面積
1,783㎡

流山市立南流山地域図書館 (千葉)

設計：新居千秋都市建築設計

〒270-0164 流山市流山2539-1

☎04-7159-4000

▶児童センターとの複合施設。1階、3階、4階が図書館で1階にカフェを併設する。無料Wi-Fiが利用可能。多世代交流を通じ、多様な学びの場を提供する。
(下柳田幸子)



開館 2023年
3月1日
延床面積
1,560㎡

はつかいち市民大野図書館 (広島)

設計：マチノニワいかなづ (梓設計)

〒739-0478 廿日市市大野1328

☎0829-54-1120

▶市民センター、トレーニング室、子育て支援センターを兼ね備えた複合施設の中にある図書館です。こども図書館も併設しており、とてもにぎわいがあります。
(熊谷智道)



開館 2022年
12月4日
延床面積
8,881㎡

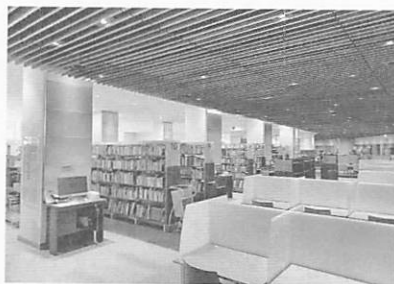
中央区立京橋図書館 (東京)

設計：類設計室

〒104-0041 中央区新富1-13-14

☎03-3551-2151

▶郷土資料館とともに「本の森ちゅうおう」に移転しました。緑豊かな庭園やCafé、多目的ホールを備え、心地よく過ごせる生涯学習拠点となっています。
(五所和弘)



開館 2023年
3月4日
延床面積
2,064㎡

佐倉市立佐倉図書館 (千葉)

設計：岡田新一設計事務所

〒285-0023 佐倉市新町40-1

☎043-485-0106

▶通称「夢咲くら館」。老朽化した旧佐倉図書館を移転し「多様な世代が集う」、そんな新たな拠点となるよう新築した複合施設です。
(利光 尚)



年頭所感

植松貞夫



新年あけましておめでとうございます。新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。会員各位にとって2024年が実りある年でありますよう祈念いたします。

新型コロナウイルス感染症の沈静化に伴い制約が緩められたことから、11月には第109回全国図書館大会岩手大会を、4年ぶりに対面式で開催できました。会場内では至る所でまさに久闊を叙する光景が見られました。分科会での議論はもとよりインフォーマルな機会での対面の意見交換が、効果的であり大切であることを再確認しました。また各地で研究集会等が対面式を主に開催されるようになりました。このままコロナ禍が収束することを期待します。

一方で、ウクライナに続きイスラエルでも戦闘が始まってしまいました。暴力と不安の連鎖が報じられています。力で支配することが正当化される時代に逆戻りさせてはなりません。そのためには、遠回りと揶揄されても、知性と高潔な倫理観が尊重される社会を追いつけなければならないと考えます。それは図書館の存在意義そのものでもあります。

協会では昨年5月末に、町村を除く全ての自治体に「図書館で働く非正規職員の処遇改善に関するお願い」を発出しました。公共図書館においては、職員の非正規化の拡大と資料費の減少が続いています。学校図書館でも昨年度からの第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」に学校司書の配置拡充等の経費が措置されているにもかかわらず、それらが他用途に流用されている自治体が少なからずあります。図書館は決して「安上がり」でよい存在ではありません。このように、図書館が軽視されていることに対して、協会として、改善に向け関係者等への働きかけを持続的に行う所存です。同時に、会員の皆様と、強い危機感を共有したいと思います。来館者を待っている図書館員から、新たな発想に挑戦できる図書館員、枠から飛び出す図書館員となるのが、図書館の未来を確かなものにするといえます。

「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」の第一次提言（昨年4月）で設置が求められた書店と図書館関係者による対話の場は、出版関係者を含めて10月から開始されました。図書館側の委員は、出版不況という言葉に連動して図書館の複本がと繰り返されることを、今回で終わりにしたいという立場で議論に臨んでくれています。しかし、本が売れなくなっていること、「本を読まない」とする人が増えていることは、多くの実態調査が示すところです。本協会が1980年に決議した「図書館員の倫理綱領」では、第12で「図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる」としています。出版の文化を守ることは、表現の自由、受け手の知る自由を守ることにつながるからです。図書館員が本を知ること、自覚と自負のもと、幅広い領域のさまざまな本を収集することは、出版の多様性を守ることになります。改めてこの倫理綱領の読み直しを推奨します¹⁾。

末筆ながら、本年も、ご協力、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

1) <https://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/233/Default.aspx>

新春エッセー

図書館は森羅万象を教えてくれる！

☆☆☆

ずいの

『週刊ヤングマガジン』という、ギャンブル・暴力・裏社会・煽情的なシーンなどを描いた漫画が多く掲載されるイメージが世間にある青年漫画雑誌で、図書館が舞台の漫画『税金で買った本』の原作をしています。

しばしば、「ヤングマガジンで図書館のお仕事漫画を始めようと思ったのは、なにか狙いがあるのですか？」といった質問をいただきます。なにも狙いはありません。たまたま、それなりの長さの図書館勤務経験がありましたので、図書館が舞台ならあまり悩まずに面白い漫画を描けるのでは？という安易な考えから、この漫画の企画をヤングマガジン編集部へ提出したところ、連載が決まったため、作画担当の系山岡先生に綺麗な原稿にしてください、雑誌や漫画アプリなどに載せていただけというだけなんです。なにか高尚なことをしようという志はありませんし、雑誌内で目立とうと思ったわけでもありません。すべてヤングマガジン編集部およびヤンマガ読者の皆様の懐の深さによるものです。なぜ載っているんでしょうね。私もよくわかりません。

「働いていたこともあるし、図書館のことなら、だいたいわかるでしょう！」

そういった、図書館を舐め腐った甘い考えで、

ずいの

公共図書館を舞台としたリアルお仕事漫画『税金で買った本』原作者（漫画：系山岡 講談社）。

図書館が舞台の物語を世に発表することになりました。結果、自分の愚かさを痛いほど思い知ることとなります。

漫画が掲載された後、SNSなどで拝見する読者の皆様の感想からわかったのは、日本全国の公共図書館事情の多様さです。もちろん、貸出返却予約などの大まかなシステムは全国で共通しています。細かい部分に着目すればするほど、私が勤務先の図書館で「常識」だと勝手に思っていたものが覆されます。

利用者や職員の人数、蔵書冊数など館の規模や、選書基準が異なるのは、当然予想できました。一番驚いたのは、「可能な貸出延長回数を超えたり返却期限を過ぎたりした資料をカウンターに返却後、再度借りたいと利用者が申し出た場合、その本の予約者がいなければ、その場で貸し出せるか」のルールの違いです。このことにまつわるトラブルを漫画の第24話で描きました。

私の元勤務先の図書館では、カウンターで返却後、すぐに貸し出しはできないというルールを利用者の方にご説明する対応をしており、たびたびトラブルになることもあったため、第24話もそのような話にしました。掲載後、似たルールがある館の図書館員の読者の皆様からは「あるある……」と共感いただけました。一方、「予約者がいないなら、すぐに貸し出せばいいのでは？ウチではそうしている」という図書館員の方の感想も見られました。

前者は「公共の資料を一人が長期にわたって独占することは避ける」という考え、後者は「利用

者の利益を優先する」という考えでこのように対応しており、どちらが正しいとも言えず、全国的にどちらが主流ともはっきりわからない状況である、ということが突如判明し、頭を抱えました。

もしかして、こんな、細やかな違いが全国の公共図書館に大量に潜んでおり、みな自分の地域のそれが世の主流と信じて利用したり、働いたりしているのでは？

図書館のヘビーユーザーかつ、引っ越しなどで別の地域の図書館を利用することになった人でなければ、利用者視点では気づけない地域差だと思います。この世のほとんどの人が、公共図書館のルールの地域差に気づくことなく図書館を利用し、一生を終えることでしょう。

というか、私は仮にも図書館員だったのに、そんな違いがあるとまったく気がつかないまま地方の公共図書館の非正規職員の任期を務めあげてしまっていました。地域差が原因で致命的に困ることもありませんでしたし、ほかの図書館のことを細かく調べることもありませんでした。近隣の図書館はみんなそろって月曜日が定休日で、なかなか行く機会がつかれないですし……。

このままではいけないと、漫画の仕事に専念するために勤め先を辞めてからは、来館可能な公共図書館をできる限り訪ねる活動が始まりました。活動などと大げさに言いましたが、正式に取材を依頼するわけではなく、時間のあるときにはほかの地域の公共図書館をごく普通の来館者として見て回るだけです。公共図書館は「どなたでもご利用いただけます」ということになっているのは、全国共通のはずなので、ほかの用事で県外に遠出したときなどは、なるべくその地域の図書館に立ち寄るようにしています。

ほかの図書館を見て回るほど、多種多様な違いを発見します。書架の配置や間取り、バーコードの向きや貼る場所、背ラベルの色、所蔵印を押す場所、学習室のルール、閲覧席のルール、リサイクル資料の配布方法、飲食のルール……。

最近のマイブームは、その図書館では、手芸本

の型紙をどのような方法で図書に付属しているか確認することです。私の住んでいる地域周辺では、封筒を加工した袋を奥付のあたりにブックコートフィルムの切れ端などで貼っていることが多いので、全国的にそうなのかと思い込んでいたのですが、県外ではキハラさんの商品だと思われるクリアポケットを使用している館などもあり、かなり多様であることがわかりました。公共図書館がルールや仕様を決めるとき、近隣の図書館を参考にすることもあるので、地域によって偏りがあるのかもしれません。

こんな細かいことをいちいち調べるのは、漫画を描く上でも、たいして重要ではないかもしれませんが。すべての地域差を調べて考慮する必要はないし限界があると思います。念のため、漫画に役立つかも、という気持ちで細々と調べては記録しています。

ただ、純粋に知らないことを発見する作業がたのしいです。もはや趣味の調査です。

私は少しものごとに詳しくなった程度で、さもすべてを知ったような気になり、つい傲慢になってしまいます。反省しております。謙虚にたのしく生きたいです。いつも自分が無知である実感を持ち、知らないことを知るたのしさを忘れないようにしたいと思いました。

それに図書館は我々に森羅万象を教えてくれるものです。この世には、私の人生では観測しきれないほど、私の知らないことが溢れています。遠くの時代や距離に隔てられた未知の情報を、基本無料でじゃぶじゃぶと浴びられる場所が、図書館です。

初めて訪ねる図書館に来館するたび、生まれて初めて図書館に行ったときのような新鮮な高揚があり、わくわくします。いつまでもわくわくした気持ちで、知らない図書館を訪ね、未知と遭遇したいものです。

* * *

読書バリアフリー法に基づく横浜市の取り組みについて

神谷知栄

1 読書バリアフリー法について

2019（令和元）年に、「視覚障害等の読書環境の整備の推進に関する法律」（以下「読書バリアフリー法」という。）が成立しました。この法律では、視覚障害者等（視覚障害、発達障害、肢体不自由等の障害により、書籍について、視覚による表現の認識が困難な方）が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指しています。

地方公共団体には、読書バリアフリー法に基づく計画策定が努力義務とされ、計画策定の際にあらかじめ、視覚障害者等や関係者の意見を反映させる措置を講ずるよう努めるものとされています。

■視覚障害者等が利用しやすい書籍等（バリアフリー図書）とは

・紙媒体

「点字図書」、「拡大図書」等

・電子媒体

本の内容を音声で聞ける「音声デイジー」、本の内容を音声で聞きながら読み上げられる文章に色をつけるハイライト機能をもつ「マルチメディアデイジー」等

2 取り組みの方向性の検討体制について

本市では、読書バリアフリー法に基づく取り組みの方向性を検討するため、庁内での検討会議、そして外部の有識者等で構成された附属機関「横浜市社会教育委員会議」を開催しました。

■庁内検討会議

本会議では、教育委員会事務局の読書活動推進事業の所管部署である生涯学習文化財課が事務局となり、図書館の所管部署、学校図書館の所管部署、特別支援教育の所管部署のほか、障害福祉の所管部署、障害児福祉の所管部署が参加しました。

庁内検討会議では、本市の読書バリアフリー法に基づく取り組みの実施状況や課題の把握を行いました。

■附属機関「横浜市社会教育委員会議」

横浜市社会教育委員会議では、庁内検討会議で整理した現状の課題を踏まえた上で、読書バリアフリー法に基づく取り組みの方向性について協議を行いました。

委員には、生涯学習や図書館情報学を専門とする学識経験者、学校関係者、家庭教育関係者、音声デイジー等の制作を行うNPO法人の代表者のほか、視覚障害、脳性マヒの当事者団体の代表者等、出版関係者に就任いただきました。

2023（令和5）年2月に横浜市社会教育委員会議での協議の結果をまとめた提言が報告されました。

3 横浜市社会教育委員会議提言（取り組みの方向性）

庁内検討会議での現状課題の把握に加えて、視覚障害等のある読書が困難な方へのアンケート調査を実施し、アンケート調査では、「必要な方に情報が行き渡っていない」、「サービスの周知が足りない」などの課題が見えてきました。

協議の結果としてまとめられた提言は、従来からの取り組みを今後も継続的に実施するものを「基本的な取り組み」、特に重点的に推進していくものを「重点取り組み」として位置付けられました。

本提言に基づき、2024（令和6）年度策定予定の「第三次横浜市民読書活動推進計画」に読書バリアフリー法に基づく施策を盛り込む予定です。

■提言の主なポイント（重点取り組み）

重点取り組み 1

連携・協働による視覚障害者等が利用しやすい書籍等の製作

【施策】民間事業者等と連携した視覚障害者等が利用しやすい書籍等の製作

重点取り組み 2

インターネットサービス※の利用促進

【施策1】のインターネットサービスの利用支援の充実

【施策2】学校におけるインターネットサービス利用支援の充実

※インターネットサービス

「サビエ図書館」、「国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス」を指す

重点取り組み 3

図書館職員、司書教諭、学校司書等の人材育成

【施策1】市立図書館における職員の人材育成

【施策2】学校における司書教諭、学校司書等の人材育成

重点取り組み 4

効果的な広報・啓発戦略

【施策1】各種支援情報の一元化・見える化

【施策2】「誰一人取り残さない」ための情報発信

【施策3】地域共生社会の実現に向けた読書バリアフリーへの理解促進



PDF版



テキスト版

提言本文

「読書バリアフリー法に基づく取組の方向性について」

4 提言に基づく取り組みについて

横浜市社会教育委員会議提言に基づき、2023年度は次の取り組みを実施しています。

【取り組み1】読書バリアフリー啓発リーフレットの配布

読書バリアフリーに関する情報をまとめたリーフレットを作成しました。図書館や区役所のほか、読書に困難を抱える方が日頃よく利用される施設や医療機関等で配布しています。また、読書が困難な方の支援者から当事者へ情報提供が行われるよう、障害者団体、相談支援専門員、ヘルパー、ボランティアの方などにも周知を行っています。



PDF版



テキスト版

読書バリアフリー啓発リーフレット

【取り組み2】読書バリアフリー情報サイトの開設

これまで点在していた読書バリアフリーに関する支援情報を集約し、ポータルサイトとして情報サイトを開設しました。視覚障害のある職員からのアドバイスをもらい、音声読み上げ機能を利用した際の、読みやすさやアクセスのしやすさに留意して制作しました。



横浜市 読書バリアフリー情報サイト

【取り組み3】読書バリアフリー啓発動画の配信

読書バリアフリーの啓発に取り組まれている団体「りんごプロジェクト（NPO法人ピープルデザイン研究所）」に協力いただき、「バリアフリー図書」「読書支援機器」「図書館サービス」など、読書バリアフリーに関する情報について、デモンスト

レーションを交えながら紹介する動画を作成、配信しています。



動画の掲載ページ

【取り組み4】読書バリアフリー展の開催

横浜市庁舎の展示スペースで、「バリアフリー図書の体験」「啓発動画（取り組み3）の放映」「啓発パネル展示」など、読書バリアフリーについて分かりやすくお伝えする企画展を開催しました。

『ハンチバック』で第169回芥川賞を受賞された作家の市川沙央氏から、横浜市民に向けて寄せられた読書バリアフリーに関するメッセージの展示や、見えづらい（文字がにじんで見える、歪んで見える）状況を体験できるタペストリーを展示するなど、読書バリアフリーに関心を抱いてもらうための工夫を行いました。また同時期に中央図書館でも読書バリアフリー展示を行いました。



展示の様子

【取り組み5】区における読書バリアフリーの取り組みを推進するための予算配付

本市では各区にある図書館と区役所が、地域性

に応じた読書活動推進事業に取り組んでいます。教育委員会から、希望する区へ読書バリアフリーを推進するための予算を配付し、図書館でのバリアフリー図書の購入や、「りんごの棚」（バリアフリー図書を紹介するコーナー）の設置などの取り組みが行われています。

（かみや ちえ：横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課）
[NDC10：015.97]

BSH：1. 読書バリアフリー法 2. 障害者サービス]

特集◎トピックスで追う図書館とその周辺

岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の司書人事交流に期待すること

長尾勝広

はじめに

岐阜市立図書館は、中央図書館をはじめ、JR岐阜駅に併設する分館、市内5か所にありそれぞれの地域の特徴が表れた個性豊かな図書室の計7か所で運営しています。

その中央図書館を中核とする複合文化施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、市民活動交流センター、ホール、ギャラリーなどを有し、2015年の開館以来、屋根の付いた公園のような居心地の良い場所、ひとが集い、憩い、豊かな対話が始まるサードプレイスとして、年間120万人の方々に利用されています。

昨年度、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、これからの図書館のあり方を指し示す、先進的な活動を行う施設に贈られる賞「Library of the

Year 2022」大賞をいただくことができました。図書館と市民活動を軸に地域の可能性を追求する複合文化施設であることが高く評価されました。

図書館同盟

2019年7月19日、岐阜市と神奈川県大和市は、「図書館の連携・協力に関する同盟」を締結し、同年12月19日に、新たに塩尻市が加盟しました。この同盟は、図書館を中心とした複合施設を展開する自治体同士が、互いが持つノウハウやアイデアによって連携・協力し、より多くの市民にとって魅力的な図書館の運営や読書活動の推進に寄与することを目的としています。

同盟締結以来、それぞれの図書館で同盟市が舞台となった小説の紹介や、同盟市の紹介展示、同盟市が主催するイベントへのZoom参加、職員交流などを行ってきました。

同盟の事務局を1年交代で持ち回る方式で、同盟市間の交流を行っています。

図書館司書の人事交流

2022年5月28日(土)、塩尻市市民交流センター(えんぱーく)において図書館同盟事業の一つとして行われた3市長鼎談の中で、柴橋正直岐阜市長から、図書館司書同士の人事交流についての発言



▲「みんなの森 ぎふメディアコスモス」外観

がありました。

他の公立図書館の運営方法、選書の方法、イベント等の事業実施などについて実際に業務を行い経験し、派遣先で学んだことをフィードバックすることができるなど、長期的な図書館運営の改善のために有益であるとのことから、市直営図書館の岐阜市と塩尻市の間で職員の人事交流に関する協定書を交し、2023年4月1日から1年間、正規職員司書1名をお互いの図書館へ派遣することとなりました。

人事交流について関係者のコメント

今回の人事交流について、関係者から以下のコメントをいただきました。

塩尻市立図書館 上條史生館長

“屋根のついた公園のような、多様で居心地の良い場所”をコンセプトに“シビックプライド”の醸成を目指す「みんなの森 ぎふメディアコスモス」と“知恵の交流を通じた人づくりの場”を基本コンセプトとする「塩尻市市民交流センターえんぱーく」は、目指すところの多くが共通していると捉えています。

人口規模や施設規模が違う両市ですが、複合文化施設の中核を担い、新たな情報サービスを柔軟に生み出し、市民を主役とした図書館運営に挑戦しています。

この度の人事交流は、同盟の趣旨である「互いが持つノウハウやアイデアによって連携・協力し、より多くの市民にとって魅力的な図書館の運営や読書活動の推進に寄与する」うえで絶好の機会です。両職員がそれぞれの図書館で刺激を受け、与え合いながら学び、その成果を持ち帰り、「進化する図書館」の実現につなげてくれることを大いに期待します。

塩尻市立図書館から岐阜市立図書館へ派遣

矢ヶ崎文 主任

岐阜市立図書館は、“子どもの声は未来の声”というキャッチフレーズから、小さな子どもを連れた親子のためのスペース「親子のグローブ」や、中高生がいつでも来られるように「YA専用席」等を設けています。また、「おはなしのへや」では年齢別に子ども向けのおはなし会を開催し、平日でも親子の利用者がとても多いです。

イベントでは、小・中学生向けとして、子ども司書の養成講座が行われ、司書に認定された子どもたちは、毎月2回の活動でラジオ番組の企画運営など、継続した活動を行っています。そのほか、読書手帳「本のお宝帳」の活用により同じくらい本を読む子ども同士の交流の場の提供を行っています。大人向けには、地域に興味関心を持ってもらう「おとなの夜学」を行っています。

実際に半年働いてみると、似通ったイベントである「子ども司書養成講座」でも、開始前の子どもたちを緊張させない会話や対応、講座内容も実践する、作成するなどの内容が多くあり、子どもたちが自由に楽しく動けるものになっているため、その後のラジオ活動などにも積極的に参加し発言することができていたのだと思います。市民の活動拠点となる施設、滞在型の図書館として、このような図書館での取り組み方をしっかりと学び、自館での今後に役立てていきたいと思っています。



▲岐阜市立中央図書館 木製格子屋根と布製のかさ「グローブ」

岐阜市立図書館から塩尻市立図書館へ派遣

武生恵子 副主査

私は、複合施設内での図書館運営と、小学校区ごとに分館を備えた塩尻市の図書館サービスについて学ぶことが派遣職員としてのミッションと捉え、日々の業務に取り組んできました。この半年、実際に勤務をして感じていることは、図書館の入っている塩尻市市民交流センター（えんぱーく）の構造がとても良くできているということ、図書館が会計年度任用職員の高いスキルと意欲に支えられていることです。

塩尻市は、重点事業である「信州しおじり本の寺子屋」をはじめとして、イベント開催数が非常に多いです。分館でも工作等のイベントを頻繁に実施しています。

また、図書館員が外部へ出向く活動（出張図書館やおはなし会など）も頻繁です。本館に所属する読書推進アドバイザーを中心として、読書活動を推進する体制が整っていることが要因と思われます。

十分な人員が配置されているからこそ、充実したサービスの提供が実現しています。塩尻のよい部分を岐阜にそのまま導入することは難しいですが、残りの時間で岐阜にどのように還元できるか、考えていきたいです。

以上のように、初めての人事交流であります。派遣先から帰った後に期待することや、帰ってから業務に生かしていきたいことなど多くを聞くことができました。

岐阜市立図書館は、中央図書館、分館、図書室のネットワークを強化し、司書の情報発信能力を相互に磨きあうことによって、図書館サービスの全体的向上を図りたいと考えています。塩尻市立図書館も本館と八つの分館を運営されているとのことですので、本館、分館の連携方法について、岐阜市立図書館でも取り入れることがないか研究してほしいと思います。

この人事交流をチャンスととらえ、今まで岐阜で学んだ図書館司書としてのスキルを他の図書館で生かすことができるのか挑戦し、また塩尻市立図書館の司書の方々から多くを学び、岐阜へ戻ってから、館内の職員にフィードバックしてほしいと思います。

今後について

岐阜市立図書館と塩尻市立図書館の人事交流は2023年度の1年間となっていますが、この人事交流を機に、お互いの館の職員がそれぞれの館の抱える悩みを相談しあったり、館の見学を行ったりすることが今まで以上に気軽にできるようになりました。また、それぞれの館で活動する「子ども司書」の交流についても具体的に検討を始めています。

来年度、派遣されていた職員が戻ってから、それぞれの図書館にどのような変化が起こり、変わっていくのか今から楽しみです。

また、今までは、新型コロナウイルス感染拡大の懸念があり思うように進めることができませんでしたが、今後は大和市立図書館を含めた3館の交流も再び動き出す準備をしています。

最後に、この人事交流を経て、お互いの図書館が、滞在型図書館として今まで以上に市民に愛され、市民活動の拠点となることを願っています。

（ながお かつひろ：岐阜市立図書館長）

[NDC10：013.1]

BSH：1.図書館員 2.岐阜市立図書館 3.塩尻市立図書館]

図書館ボランティア体験を通した不登校・ひきこもり改善・自立支援

柳川涼司・腰越未樹

事業の経緯と概要

NPO 法人ぜんしん（以下「ぜんしん」とする）は、2019年から平塚市の市民提案型協働事業制度を活用し、図書館においてボランティア体験を通した不登校・ひきこもりの改善・自立支援事業の仕組みづくりを進め、現在も活動を継続している。

2019年以前、ぜんしんは不登校・ひきこもりに悩む当事者に対し、市の青少年課と協働し、彼らへ居場所の提供や、相談対応などの事業を行ってきた。ひきこもり状態から脱し、居場所を訪れた当事者が更に自信を高め、自立するためには、居場所以外のシーンにおける成功体験の積み重ねが求められる。一方、図書館は市の課題として年々需要が増加する「ひきこもり自立支援」に直接的に関わるきっかけがなかった。そこで、当事者が平塚市中央図書館での本の修繕や書架整理といったボランティア体験を通して自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すことを目的に本事業がはじまった。

図書館は会場とボランティア体験の内容を用意し、ぜんしんは不登校・ひきこもりに対する専門家として、寄り添いスタッフを提供し、体験作業の補助とメンタルケアを行う。事業の立ち上げ当初、ぜんしんは図書館にて研修を受け、本の修繕

や書架整理のノウハウを学び、作業マニュアルや動画を作成した。マニュアルなどは現在もボランティア体験活動を支える有効なツールとして役立っている。

1回の体験は約2時間、定員は8人で、年に6回ほど開催している。募集は市の広報紙や図書館のホームページ、ぜんしんが作成したポスター・ちらしなどで行っている。作業開始時には、今日の作業の内容と目的を確認し、図書館からの貸与物品リストをチェックするなど「就業」を意識したプログラムを組んでいる。終了時には「作業報告書」の提出と「達成度チェックシート」を作成してもらい「今日はこんなに作業ができた」、「新しいことに挑戦できた」など各人が作業内容を振り返り、達成感をもつことで自己肯定感を高めてもらえるよう配慮している。

具体的なボランティア体験の内容は、次のとおりである。

本の修繕

参加者たちはページ外れや破れ、落書き、セロハンテープが貼られた本などの修繕作業を行っている。各回60冊程度の本を用意する。どの本を修繕するかも各自で選び、簡単な修繕の本をたくさ

んこなしていく方や、手がかかる本にじっくり取り組む方など、それぞれのペースで作業を行うことを大切にしている。

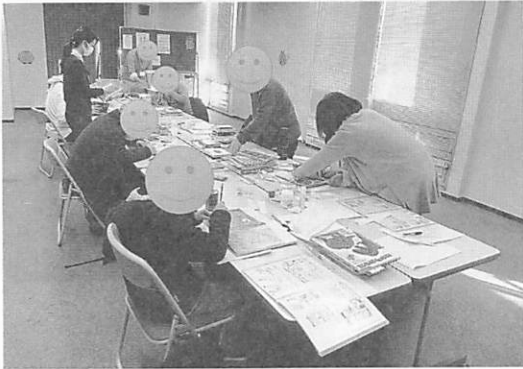


写真1. 本の修繕作業

予約在庫本探し・書架整理

館内フロアでは予約の入った在庫本を探す作業と、書架整理を行う。予約在庫本探しは、参加者へ「在庫資料リスト」を渡し、5分以内に1冊の本を探すことを目標にしている。見つからなかった場合も、それは失敗ではなく「書架に無かった」という確認作業の成果であり、次の人に引き継げばよいと説明している。決められた時間内に与えられた役割をこなすこと、自分ができなくても他の人が引き継いで作業を完了させることを学ぶ。



写真2. 予約在庫本探し作業

続けて参加者は書架整理を行うことで、図書館のルールにのっとり書架がきれいに保たれている

ことを知る。探している本にたどりつくためには、書架整理が必須であることを実感してもらう。参加者は「自身の作業内容が一般利用者のためになっている」と思えることから達成感を得て、自信を深めていく。

また、バックヤードで行う修繕作業とは異なり、利用者から「この本はどこにあるの？」など話しかけられる場合もあり、ひきこもり改善に向けて、いろいろな人と接する機会にもなっている。事業開始前、フロア作業時に利用者とのトラブルを心配する声もあったが、ぜんしんスタッフの適切なサポートにより、問題は起きていない。利用者には特別なアナウンスはしておらず、館内に「図書整備ボランティア活動中」と看板を掲示し、参加者には「ボランティア」という名札を身に着けてもらっている。



写真3. 書架整理作業

一步ふみ出す・きっかけになった本の紹介

市民提案型協働事業の審査員からの「より図書館における活動であることを活かし、ソフト面からのアプローチができるのではないか」というアドバイスを受け、参加者に本の紹介をしてもらう企画ができた。「一步ふみ出す・きっかけになった本」として、次のような本とその紹介コメントを募集している。

- ・不登校やひきこもりから回復するきっかけになった本

- ・ 出会ってよかった、心が動かされた、はげまされたと思う本
- ・ 同じ悩みを持つ人におすすめしたい本
- ・ ひきこもりについて知ることができる本（支援機関紹介や体験記なども）

現在はホームページに掲載しているが、ある程度記事が集まったら、特集展示を行いたい。

課題・今後の展望

ボランティア体験のリピーターとなり自信を深め、参加者をサポートする立場になる方もいる一方、同じ作業に飽きてしまったという方もおり、新しい作業を体験プログラムに追加する必要がある。加えて、参加希望者をより多く受け入れるため市内の地区図書館での実施も検討している。

また、「自分はひきこもりではない」と思う方は参加しにくいという声が聞えるなど、支援が必要な人にどのようにつながっていくかという課題がある。

活動実績（2023年10月まで）

- ・ 述べ参加者数：148人
- ・ 実質参加者数：35人
- ・ 年齢内訳：10代：8人、20代：11人、30代：8人、40代：8人、50代：4人
- ・ 実施回数：24回
- ・ 自立に向かった人数：7人（※当該事業に参加した後、自立に至った人数〔把握できている人数〕）
- ・ 参加者アンケート（抜粋）

「予約本は全て探すことはできなかったが、3冊は見つけられて良かった。書架整理も、キレイになった棚を見て、達成感が得られた。知っている本や有名な本を見つけられて楽しかった」。「予約本探しは無事すべてが終わった。宝探し感覚でやることができた」。「次回は糊やテープを使ったさまざまな本の修繕方法に挑戦したい」



写真4. 修繕が終了した本

市民提案型協働事業としての取り組みは2021年度で終了したが、2022年度以降もボランティア体験として定期的に開催している。今後も図書館とぜんしんが連携し、事業を継続・発展させることで、一人でも多くの当事者が自立に向かえるように努めていきたい。

“不登校・ひきこもり改善・自立支援”である、と気負わず、本の修繕や本探しを、参加者の言葉にあるとおり「宝探し」のように楽しみながら参加してもらいたいと考えている。

参考

- ・ カレントアウェアネス・ポータル「E2616－図書館ボランティア体験による不登校・ひきこもり改善支援」
<https://current.ndl.go.jp/e2616>
 - ・ 特定非営利活動法人ぜんしん公式ホームページ
<https://www.zenshinpo.org>
 - ・ 平塚市「協働事業」
https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/kyodo/page37_00040.html
 - ・ 平塚市立図書館「一歩ふみ出す・きっかけになった本を紹介します（2023-06-25）」
<https://www.lib.city.hiratsuka.kanagawa.jp/info?1&pid=623>
- （やながわ りょうじ：NPO 法人ぜんしん、

こしごえ みき：平塚市中央図書館）
〔NDC10：015 BSH：平塚市中央図書館〕

特集◎トピックスで追う図書館とその周辺

仕合わせる幸せ

長野源世

三条市図書館等複合施設「まちやま」は、2022年7月24日に開館した、三条市立図書館・科学教育センター・鍛冶ミュージアム・まちなか交流広場「ステージえんがわ」・屋外広場が一体となった施設です。この施設は指定管理者「ツクール・ド・さんじょう」¹⁾という、株式会社ヴィアックスとNPO法人えんがわの共同事業体で運営しています。指定管理者公募の際に、図書館運営会社とまちづくり会社の2団体で構成しなければならない、という三条市の要件のもと、まちやまの管理運営に加え、まちなかのにぎわいづくりも一緒に行っています。もともとNPO法人えんがわは、2016年に開館したまちなか交流広場「ステージえんがわ」のソフト事業²⁾を担っておりました。まちなか³⁾資源の創造・繁栄や地域資源活用事業のさらなる継続・発展のため、市民団体、民間事業者、施設、技術、材料、商品、人材等をつなげ、地域資源を活用したイベント・ビジネス等の事業を市内外に向けて広く発信し、持続可能な活動を目指していく中で、さまざまな角度から三条市の魅力を体感できる場づくりや、地域住民の誇りの醸成、地域への帰属意識や愛着感を感じられる魅力あるまちづくりの一助となる活動を続けています。

2団体が一緒になることで生まれる効果を活かし、2023年6月1日より図書館利用カードで三条生まれの道工具刃物類を借りることができる「まちやま道具箱」は始まりました。このまちやま道具箱が生まれる背景には、7年前からのまちなか交流広場「ステージえんがわ」でのさまざまな取り組みの中において感じてきた「三条市は“ものづくりのまち”と言われていたが…どれだけの市民がより具体的に、自慢気に三条の産業的特産物を回答できるか？」という疑問がありました。また、図書館等複合施設の指定管理者として見ると「三条市の人口約10万人に対して、図書館利用カードは6万5000人の登録者がいる！」ため、図書館利用カードの活用は、多くの人々により早くサー-

ビスを届ける手段となります。この2つの観点から、「まちやま道具箱」立案がスタートしました。

さまざまな市民とのワークショップ等を通じて培った道工具の利便性や大切さ、さまざまな企業との交流を通じて再認識した流通のまちとしての分業を支えるシステムの利便性、それらをフル活用しながら、図書館等複合施設として、市民への利便性向上の一助になれるものがもっとあるのではないかと。こうした疑問から、前段の2つの観点をもとに、独自で土着な取り組みを重要視したサービスを始めたいと企画を組み上げていきました。まずは、次の5項目を考えに入れることにしました。

- ①より地元への愛着や自慢が増えること
- ②本物の良さを語れること
- ③自身の生活がより豊かになること

三条で生まれた道具の図書館
**まちやま
道具箱**

道具や工具を
借りてみよう

借り方

- 1 1階カウンターに
借りたい道具の
カードと図書カード
を出し、手続き・
貸出料の記入を行
います。
- 2 専用ボックスに入
った道具を受け取
ります。(返却時
アンケートをご協
力お願いします)
- 3 貸出し 1週間

start
6月1日(木) 15:00~
19:00
対象・三条市立図書館の利用カードを
お持ちの19歳以上の方
貸出し時間・9:30-20:00
貸出し点数・1点
貸出し期間・1週間

④地元産業貢献の一助となること

⑤お試し機能

図書館利用カード登録者の6万5000人に対してすぐにでも届けられることと、今後の広域連携でまちやまの利用可能者数を飛躍的に多く受け入れられる環境が整ってきたことから、図書館等複合施設が担える役割（利用者サービス向上、シティーセールス）を“私たちが持っているもの”で作り上げたいと考えました。「図書館で借りられるものは書籍だけにあらず!」ということで、複合施設の利用度向上も目指してこの「まちやま道具箱」が仕上がりました。

「家の棚が壊れた、棚を作りたい等、わざわざ電動工具やのこぎりを買うまでもないが直したい!」、「良い品のそば切りやパン切り包丁を買いたいが試してみたい!」、「庭の手入れをしたいがちょっとだけ使いたい!」、「子どもの工作に必要!」、「三条はこんなに便利なものを作っているんだね」、「買うなら〇〇〇がおすすめだよ!」。こうした要望に応えることが、この三条ならば可能ではないか?過去にさまざまなイベント等でお付き合いのあった企業やメーカー、商工会議所、工業会に、「まちやま道具箱」の企画案をヒアリングしてみると非常に好感触で、ぜひ協力したいと賛同いただけました。これはこの土地に根付いている気質も大いにあるのだと確信しております。まさに土着な取り組みが動き始めた瞬間でした。「①より地元への愛着や自慢が増えること」、「②本物の良さを語れること」、「③自身の生活がより豊かになること」にもつながっています。

この道具箱に賛同いただける製品は「三条生まれ」を軸に構成されています。三条生まれとは、市内の企業が培ってきた経験値やアイデアで企画構成された製品であれば、made in sanjoでなくともborn in sanjoであればOKという意味です。これらは営利事業としてではなく、公共性のあるところが行ってこそなしえる面は大きいと考えます。開始にあたっては刃物類も入ってきますので、利用上のオペレーションや万が一の保険対応などさまざまな角度からの考察を繰り返し現在に至っております。今「まちやま道具箱」にご協力いただいている方々の製品すべては、貸出専用工具箱から製品メンテナンス含め、すべて企業協賛によって成り立っています。

現在、アイテム数は現行で31アイテムですが、



バックヤードにアイテムが数種類控えております。三条市の近郊のメーカーからも「ぜひ取り組みに協賛させてほしい」とありがたいお言葉も多数いただいておりますが、まずは三条市内事業者からスタートさせていただき、徐々に増やしていく考えで取り組んでおります。この取り組みにおける利用率から、日常生活において意外性のあるものが非常に頻繁に貸し出されることや、時期のおよび季節的な側面で貸し出し回数が増えるなど、モノの動き方にもいろいろな側面が見えてきます。非常に興味深く、利用者からさまざまな意見も頂戴いたします。一般の家庭内に常備しているもの、常備されていないけれど利用頻度の高いものといった目に見えにくい情報も、知らず知らずに受付時やアンケートによって浮かんできますので、こういった情報が一定程度になりましたら、協賛企業にはフィードバックをさせていただいております。この道具箱企画は、一週間という貸出期間はあるものの、長期利用は割合に少なく、比較的短期間で返却していただいております。さらなる利用者への供給もスムーズにすることができて、非常に助かっております。

さらに利用者のさまざまな欲求が刺激されるイベントの工夫を施すことで、老若男女の市民の利用を促すとともに、利用者のポテンシャルを引き

まちやま道具箱の貸出し品目と回数

番号	道具名	貸出し回数
1	植木ばさみ・剪定ばさみ	12
2	薄刃鋸・精密ピンセット・精密ナイフ	1
3	理美容はさみ	14
4	ペンチ・ニッパー・ラジオペンチ	1
5	(クラフト用) ペンチ・ニッパー・ラジオペンチ	1
6	ドライバースセット	1
7	先端ビット	1
8	フレキシブルシャフト・オフセットアダプター	1
9	玄能	2
10	1 ドリルドライバー	6
2	ドリルドライバー	8
11	1 インパクトドライバー	14
2	インパクトドライバー	2
12	大工道具8点セット	3
13	大工道具6点セット	6
14	洋のみセット	1
15	プライヤーセット	1
16	蕎麦切り庖丁	1
17	パン切り庖丁	8
18	ベティナイフ	3
19	三徳包丁170mm (ステンレス×青紙鋼)	4
20	三徳包丁165mm (ステンレス×SLD 鋼)	3
21	カッティングボード	1
22	1 大工道具5点セット	2
2	大工道具5点セット	4
23	はんだごて工作セット	0
24	庭のお手入れセット	6
25	粗大ごみ分解セット	3
26	六角レンチ・スパナセット	0
27	ツール45点セット	2
28	ねじ外し・ピアノ線切断セット	0
29	プライヤー・ニッパセット	0
30	ねじ外し・ペンチ・ニッパセット	0
31	彫刻刀セット	0

※2023年11月15日現在

出せる交流事業の一環として、現在は道工具類の歴史から使い方までをレクチャーし、よりよく使ってもらうことをテーマに各協賛メーカーと“まちやま道具箱ワークショップ”を開催するに至っております。新しく買うだけではない、自分で自分の物を生み出すという風潮づくりの一助にもなっているのではないかと考えております。私もまちやまの指定管理者は、この地ならではの地域の力（ヒト・モノ・コト）を最大限に活かすということを運営の基本的な考えにしているので、今後はもう少し生活用品に近寄ったものや、アウトドア製品などにも着目していきたいと思っています。また、できれば利用可能区域以外の方への短期間限定のサービス（例えば時間貸しなど）が可能になっていけたら、「④地元産業貢献の一助となること」や「⑤お試し機能」にもつながるのではないかと考えています！

こういった「まちやま道具箱」がきっかけとなり、市内小学校や事業者との新たな連携事業も始

まっております。まちやま来館者だけに向けたサービス提供に留めることなく、三条市立図書館のサービスのひとつである“電子図書館”を地域のさまざまな施設利用者向けに活用する企画です。まずは医療機関との取り組みからはじめ、将来的には福祉施設や児童施設などでの導入も進めていく考えのもと、病院や個人開業医院、健康診断施設などでの待ち時間や入院等の際の時間を充実したものにしていけるための有効活用のツールとして“寄り添える電子図書館”を目指していきたいと考えています。例えば、体調に合わせて文字の大きさなどの調整ができる、活字が読めなくても耳で聞くこともできる、外出せずとも図書館を利用できる、といった患者への利用促進が挙げられます。また、院内サービスの差別化、雑誌購入費用などの削減、書籍スペースの削減（将来的に）、通院患者も含め病院医療従事者全体へのサービス拡大といったような福利厚生的な利便性向上が見込まれると思っております。

また、図書館利用カードが他自治体在住でも作成できる利点を活用し、電子図書が導入されていない他自治体でも導入を推進していきます。

公共施設として有している人的、物質的、機能的な事柄の利用法をより深く考え、「こうでなくてはダメ！」ではなく、「こうであつたらもっといい！」を考え実施していくことで、より多くの方々に利用していただけるように運営していくことが、私たち「まちやま」が行うべきことと考え、さまざまなヒト・モノ・コトの持てる力を合わせて「仕合わせる幸せ」を目指していきたいと思っております。

注

- 1) ツクール・ド・さんじょうとは、フランス語の“Le Tour de ○○”（○○1周）と、ものづくりのまち三条から“つく”と“三条”を掛け合わせて、三条のまちが一体となつてつながっている様を表現した造語。
- 2) イベント実施による集客でのにぎわいづくりや、人が施設に來くなる仕組みづくりのこと。
- 3) まちなかとは、JR 東三条駅、北三条駅、三条駅に囲まれた三条市の中心市街地のことを指します。この地区は、高齢化率が高く、商業施設の郊外移転が進み、空き店舗の増加や居住人口の減少など空洞化が進んでいるため、さまざまな課題解決のために取り組んでいます。

(ながの げんせ：ツクール・ド・さんじょう、

NPO 法人えんがわ)

[NDC10:015 BSH:三条市立図書館]

「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」 研修会開催について

JLA健康情報委員会

2023年10月23日(月)に埼玉県立図書館と共催で行われた研修会「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価」について報告する。会場は埼玉県立久喜図書館、会場参加およびウェビナーにて開催した。当日の参加者は会場21名、ウェビナー参加44名合計65名であった。研修会后、埼玉県立久喜図書館の見学会を行った。

1. 講演

「健康コレクションマネジメントと健康情報の評価—米国 Consumer Health Collection Management に学ぶ」

講師：牛澤典子（東邦大学医学メディアセンター
大橋病院図書室）

「あなたの目の前にある、あるいはカタログに載っている1冊の医学分野の本。それをあなたの図書館利用者のために受け入れるか否か、判断するのが難しいと感じることがおありだろう。または、利用者の探し物を手伝って書架の本を手渡したとき、レファレンスで尋ねられた回答として資料を示したとき、それらが利用者の健康に役立つか不安になることはないだろうか？」という問いに答えるという趣旨で、米国立医学図書館(NLM)が提供している研修プログラム「Consumer Health Collection Management」¹⁾（以下、プログラム）を学んだ。このプログラムの対象は医学図書館員や一般市民に情報提供する公共図書館員であり、図書館員が健康情報資料の質を評価し、健康情報収集に関する知識を向上させることを目的にしている。公共図書館においては健康本の評価が難しいと言

われているが、館の種類や地域の状況に合わせた資料の選書の必要性や、ウェブ情報の取り扱い、選書と同時に除架などの全体的な管理についても考慮されている。プログラムの構成は以下の通りである。

- ・健康コレクションマネジメント入門
- ・収集方針と手順を見直す
- ・地域社会を知る
- ・コレクションを評価する
- ・資料の追加

プログラムでは、“健康コレクションの中核はオンラインであるべき”という新しいアプローチが示されている。米国では健康全般をカバーする優れた健康サイトとしてNLMが作成する「Medline Plus」²⁾が評価されている。日本ではまだ充実しているとは言えないが、がん分野での「がん情報サービス」³⁾のウェブサイトや冊子が紹介され、所蔵資料よりも優先して提示すべきとされた。また、プログラムでは“情け容赦なく健康資料を除架する”ことが強調され、2年以上前の印刷物は、評価し、古くなったものを速やかに回収し、除架した健康資料をリサイクルしないことと述べられている。なお、2年での評価は作業負担が大きいため、5年を目安にした除架の検討をお勧めしたい。

今回の研修では、プログラムで事後課題とされているものの半分を研修会事前課題とした。参加者からは、書かれている情報の真偽をどのように判断するか、古い資料の評価方法、民間療法の資料の評価などに関する疑問が予想以上に寄せられた。講演では健康情報資料の評価において“科学的根拠に基づいている”ことが重要であり、その

具体的な評価方法について、日本の状況を踏まえた説明があった。“科学的根拠に基づいている”ことの評価については、研修後のアンケートでも継続的な研修の要望があった。健康情報委員会として、引き続き皆さんと協力して考えていきたい。

2. 事例報告

「埼玉県立図書館の健康・医療情報の収集について」

久保田崇子（埼玉県立久喜図書館自然科学・技術資料担当）、松田康佑（埼玉県立熊谷図書館資料収集・整理担当）

埼玉県立図書館は久喜図書館と熊谷図書館の2館体制で、健康・医療情報サービスの実務を久喜図書館が、2館全体の資料選定・収集を熊谷図書館が担っている。それぞれの視点から、健康・医療情報の収集と活用について事例報告を行った。

サービス担当の久喜図書館自然科学・技術資料担当では、2009（平成21）年度より「健康・医療情報コーナー」を設置し、埼玉県立図書館の重点サービスとしてさまざまな事業に取り組んでいる。コーナーではNDC分類49類にあたる資料を中心に目立つ場所にまとめ、がん、認知症、発達障害、妊活等の特設コーナーを設けている。また図書だけでなく専門雑誌や自然科学分野のデータベースを提供するほか、関連機関のパンフレット類の収集・提供を行っている。

サービスを行う上で必要と感じた資料は、熊谷図書館資料収集・整理担当に選定を依頼している。依頼する資料は情報の鮮度や、いわゆるバイブル本でないかといった点を注視する。しかし、情報の価値を判断するのはあくまで利用者であると考え、図書館は資料・情報の提供のみを行い、病状・治療の判断はできないということを免責事項として掲示している。また異なる意見の資料をバランスよく配架するとともに、県民のヘルスリテラシー向上のためのイベントを実施している。あわせて、行政の関連部署や地域の患者会、病院図書館等と連携した事業を実施し、多様な視点からの情報収集・提供を行うよう努めている。

選定を担当する資料収集・整理担当では、「埼玉

県立図書館資料収集方針」「同資料（図書）選定基準」に則って、参考図書や高度で専門的な資料を中心に選定を行っている。ただし、ビジネス、健康・医療分野の情報提供は館の重点サービスと位置づけられており、入門書・実用書の選定についても留意することとしている。

健康・医療に関する資料を選定する際には、見計らいや『週刊新刊情報』のほか、日本医書出版協会など医学書専門のウェブサイトを確認し、新刊情報を漏れなくチェックしている。受入の判断にあたっては、基本的な書誌事項に加え、参考文献や索引の有無、自費出版であるか、自館に類書があるか、想定される読者層も考慮する。特に読者層については、病気等はないが健康・医療情報に関心のある人、現在病気を患っている人とその家族、医療従事者など、知識レベルに差のあるそれぞれの層に対して役立つ資料を意識している。また、自然科学・技術資料担当で行う事業に合わせて、関連テーマの資料を選定することもある。2館でサービス担当と選定担当が離れたところにいることから困難もあるが、当館の事例が参考になれば幸いである。



注

- 1) Consumer Health Collection Management-On demand
<https://www.nlm.gov/training/class-catalog/consumer-health-collection-management-demand> [accessed 2023-11-20]
- 2) MedlinePlus
<https://medlineplus.gov/> [accessed 2023-11-20]
- 3) がん情報サービス
<https://ganjoho.jp> [accessed 2023-11-20]

[NDC10:015 BSH:健康情報]

特集◎トピックスで追う図書館とその周辺

今こそ漢字にふりがなを。私が考える「ふりがな再考論」

—出版物およびデジタルコンテンツにルビ（ふりがな）の普及・活用を目指すルビ財団の取り組み—

伊藤 豊

紙の本には価値がある

電車に乗れば、座席の横一列全員がスマホの画面に見入っている。紙の本を読んでいる人はもはや絶滅危惧種だ。

動画を中心にインターネットのデジタルコンテンツが増え続ける中で、紙の本を読む機会はますます減ってきている。中には、もう紙の本は要らない、デジタルコンテンツをもっと活用すれば良いという人もいる。

しかし、私は紙の本の価値をあらためて訴えたいと思う。紙の本はなにしろ物理的な存在感がある。物体として空間を占める強さがある。そこに存在する以上、読者が手に取り、文字と向き合う時間を創出する力がある。一方で、デジタルだとスマホやパソコンの中に埋もれてしまい、想起されたりクリックされることなく忘却されるものも多い。図書館や書店に並ぶ書物の山の中を散策することでまたま出会った一冊から世界が広がることもある。もちろん、デジタルにもさまざまな動線はあるし、好奇心からさまざまな道を開く方法もあるだろう。でも、デジタルの世界は誘惑も多ければフェイクも多い。

そして、何より誰もが公平にアクセスできる媒体は紙の本であろう。これだけ学校や公共の図書館インフラが充実している日本においては、紙の本にアクセスするコストは低いと言える。デジタルの方が楽だ、コストが低いという人もいるが、家庭で問題なくネット環境を使え、スマホやパソコンを十分に使いこなし、読みたい本を不自由なく課金できる層がどれだけいるだろうか？誰もが公平にアクセスできるという点において紙の本には価値があることに異論はないだろう。

娘を本好きに育てようとして気づいたこと

私自身が本からたくさんのことを学んだ。だから

ら、娘たちにも本好きになってほしいと思い、図書館にもよく行く。書店にいけば可能な限り、娘たちがほしい本は買い与えるようにしてきた。児童書はとても充実している。おかげで娘二人とも本好きに育っている。

しかし、児童書ではなく、中学生以上の大人向けに書かれた本を読もうとすると、ある壁にぶちあたる。それは、読めない漢字が多いということだ。多少は読めない漢字があっても気にせずに読み進めることができるが、読みがわからない漢字があまりにも登場するとその本を読むのが難しくなる。小学校高学年くらいになると、少し背伸びして小説や新書を読んでみようとするが、漢字がネックで読むのが難しい。少なくともうちの娘はそうだった。せっかく良い内容の本だし、娘も興味を持つはずなのにもったいない。漢字にふりがなさえあれば、知らない単語でも調べながら読めるのに、と思っていた。

読めない知らない単語があったら漢字辞典で調べれば良い、それが勉強だ。なんて言う人もいるが、それはその通りなのだが、実際には面倒だし、そこまでして読まなければならないものでもなければ、そんな面倒はしないのが普通だ。インターネットという便利なツールを知っている私たちは、読み方さえわかれば知らない単語の意味も一瞬で調べられる。その前提を共有している世代にとって、漢字辞典を引くよりも、読み方を教えてほしい、と思うのが先にくる。

そんなことを考えていた矢先に、マネックスグループの創業者である松本大さん（この人の名前もふりがなが必要だ。大と書いて「おおき」と読む）から、ふりがなのルビをもっと世の中に広めたいのだけど、一緒にやらないか？とお声がけいただいた。

松本さんは子どもの頃に、自宅の本棚の下段の

棚にご両親の計らいからか、児童書以外のルビつきの本もたくさん並べられた環境で育った。ルビのおかげで、大人の本も読めたことで、さまざまな分野に興味を持つきっかけとなり、好奇心を耕していったという。そんな原体験をもつ松本さんは、いつかインターネット上に総ルビ図書館をつくりたいという夢を抱いていた。私はその夢を聞き、インターネットでもやりましょう。そして、子どもたちが手に取るのはいまだに紙の本の方が多いし、公平に誰でも手に取ることができる紙の本でもやりましょう、と意気投合した。そうして、2023年5月に一般財団法人ルビ財団を設立して、代表理事として活動を開始した。

ルビは今こそ考えるべき古くて新しいテーマ

なぜ今、ルビに着目するのか？という話だが、デジタルの変換機能によって自分で読めないし書けない漢字さえも表示できてしまう今だからこそ、ルビの必要性を再考すべきだ。

もともと戦前の新聞は総ルビだった。戦後、ルビがなくても読めるように漢字を制限する国語改革とともに、ルビは減っていった。漢字が制限され続けて読める漢字だけが使われる世の中であるなら、ルビはなくて良いのかもしれないが、漢字は増える一方で、デジタル化とともに変換機能によってさらに増えてしまった印象だ。

すなわち、ルビは戦前戦後から議論されてきた古いテーマでありながら、ここ20年ほどのデジタル化の流れの中で状況が変わり再考を要する新しいテーマでもあるのだ。

もう一つ、今考えるべき背景もある。共生社会への意識の高まりだ。もともとは子どもたちが背伸びをして好奇心を耕し、世界を広げていくためにも大人の本にもっとルビをふってほしい、という問題意識からスタートしたものの、考えてみると、ルビはもっとインクルーシブなテーマだ。

財団の評議員には、国際人権NGOのヒューマン・ライツ・ウォッチの日本代表の土井香苗さんにも入っていただいている。彼女から教えてもらい、外国ルーツの子どもたちが日本の教育現場で苦勞している現状についても理解が深まった。外国ルーツの子どもたちへの教育機会を考えても、ルビがあった方がよい場面が多いはずだ。

また、ディスレクシア（文字の読み書きに限定した困難を持つ学習障害）の人たちの存在についても、

恥ずかしながらルビ財団の活動を始めてから知ることになった。ルビ財団の活動開始を、大手新聞、ラジオなど紹介してもらう度に、全国から共感の声や、ルビを必要とする人たち向けに自分たちでルビふりをしているというボランティアや家族の人たちからの応援の声もたくさんいただいている。

ルビであふれるルビフルな社会は

きっとやさしい社会

自分たちが思っている以上に、ルビは必要とされている。そんな使命感にも似た思いが強くなる一方で、ルビなんて要らない、むしろなくした方がよい、などと言われることもある。

ルビの重要性・必要性についてはまだまだ認識がいきわたっていない部分も多い。直接話をする、と、一定の理解を示してくれて、ルビの必要性に共感してくれる人も多い。それだけ啓発の余地のある分野なので、ルビの意義・重要性をさまざまな観点から有識者に語ってもらうオウンドメディアを準備している。編集者、言語学者、物理学者、生態学者などさまざまな分野の研究者・専門家の方々にインタビューを進めている。

今後、ウェブサイトにも自動でルビをふるボタン（無償ツール）を配布したり、ルビが教育上にもたらす学習効果に関するエビデンスも取得したいと思っている。すでに外国ルーツの子どもたちの学校現場での教育におけるルビの効用についての共同研究なども企画している。

図書館に関して言うと、ルビフルコーナーがあったら良いのと思っている。子ども向けの本を集めた児童書コーナーというわけではなく、内容的には少し背伸びが必要なんだけど、難しい漢字にもルビが多めにふられているから子どもも読めるし、読むことを勧めたいと思える良書を集める。そんなルビフル選書だ。

漢字にルビがどれくらいふられているか（ルビ含有率）で検索できたら良いのに、と思うのだが、それは現状では難しい。だから、図書館司書の皆さんの集合知で選書できないだろうか。そんなことも考え始めている。何か良いアイデアやご意見があれば是非財団のウェブサイトからご連絡いただけたらと思う。

（いとう ゆたか：一般財団法人ルビ財団）

[NDC10：811.2 BSH：1. 日本語－表記法 2. 出版]

特集◎トピックスで追う図書館とその周辺

インターネット・ガバナンス・フォーラム (IGF) 2023京都大会と図書館

井上靖代

インターネット・ガバナンス・フォーラム (IGF) とは。

さる10月8日から12日にかけて京都国際会議場で、国連主催・総務省後援のIGFが開催された。今回で18回目となる年次国際会議である。“Internet We Want – Empowering All People –” (私たちの望むインターネット—あらゆる人を後押しするためのインターネット—) という全体テーマのもと、八つのサブテーマ①AI・先端技術 (AI & Emerging Technology) ②インターネットの分断回避 (Avoiding Internet Fragmentation) ③サイバーセキュリティ、サイバー犯罪、オンラインの安全性 (Cybersecurity, Cybercrime and Online Safety) ④データガバナンス・トラスト (Data Governance and Trust) ⑤デジタルデバイド・包摂性 (Digital Divides and Inclusion) ⑥グローバルデジタルガバナンス・協力 (Global Digital Governance and Cooperation) ⑦人権及び自由 (Human Rights and Freedoms) ⑧持続可能性・環境 (Sustainability & Environment) について議論が行われた。

この国連会議は、世界情報社会サミット (WSIS: The World Summit on the Information Society) の「情報社会に関するチュニスアジェンダ」宣言 (Tunis Agenda for the Information Society) に連動して開催された。このWSISは国際電気通信連合 (ITU: International Telecommunication Union) 主導の下、2003年 (ジュネーブ)、2005年 (チュニス) と二度にわたり開催されたものであり、情報社会における共通ビジョンを確立する具体的方策を検討する各国首脳レベルでの話しあいであり、このIGFはさらに市民レベルなどすべてのステークホルダーで話しあおうというものである。

IGF京都会議はオンライン併用のハイブリッド型会議で、参加費が無料ということもあってか178ヶ国から登録者数は11,145名で、対面での会議参加者は6,279名であった。NHKや日経新聞など国内外のメディアに取り上げられ注目された会議であった。

図書館との関わりは。

インターネット情報社会で図書館の役割は欠かせないが、特に日本ではインターネットというと総務省担当者を始めとしてIT企業によるビジネスとしてとらえられがちである。日本の図書館界でも、人工知能 (AI) が図書館活動に及ぼす影響について認識が弱いと思われる。政府やIT業界と図書館との理解の橋渡しとなるべく、図書館の役割を示し理解を求めるため、IFLA (国際図書館連盟: International Federation of Library Associations and Institutions) は他の図書館関連の国際活動団体と共同で分科会を持ち、積極的に活動を示す目的で参加した。IFLAは今回のIGFに限らず、国連やユネスコ等で図書館に関連する活動会議に積極的に参加し発言してきている。今回、このIGF京都会議に800以上の分科会等開催の申込があったなかで、IFLA及び共同開催団体は三つの主体的分科会開催が認められ、さらにIFLA事務局スタッフは三つ以上の分科会等での発表者として参加した。

開会式では国連事務総長のグテーレス氏を始め、日本からは岸田首相や総務省鈴木大臣、デジタル庁河野長官、京都市長門川氏などが挨拶をしたほか、High-Level Trackで海外から招待された各国要人らが議論を行った。そのなかで図書館に言及したのは元ニュージーランド首相アーダーン氏だ

けだったのは残念である。この京都会議前にはアジア太平洋 IGF 会議がオーストラリアで、アフリカ IGF 会議がナイジェリアで開催され、本会議では365の分科会以外に、政治家が参加するparliamentary Trackや若者が参加するGlobal Youth Summitなどが行われた。

IFLA が主催した分科会

IFLA が主体となって開催した分科会では、(1)⑤のデジタルデバイド・包摂性(Digital Divides and Inclusion)のサブテーマのもと、「情報化社会でのインターネットの視点にむけて」(Towards a vision of the Internet for an informed society #161), (2)Dynamic Coalisionのもと、「図書館におけるパブリック・アクセス」(Dynamic Coalision on Public Access in Libraries #31), (3)ネットワークの分科会として「インターネット市民を後押しするためのインフラ」(An Infrastructure for empowered internet citizens #158)を主宰した。

最初の分科会(1)では、ニュージーランド元国立図書館員のW.ロバーツ氏、フィジーの国際学校図書館司書のN.ナカオラ氏、インドネシア国立図書館員のW.サリキン氏、そして日本からはIFLAアジア・オセアニア委員である野村美佐子氏(ATDO: 支援技術開発機構)と岩崎れい氏(京都ノートルダム女子大学)が発表者となり、モデレーターとしてIFLA事務局職員のM.デ・ブラスデファー氏と井上(筆者)が担当し、政策担当のS.ワイバー氏がオンラインのモデレーターとして運営した。それぞれのプレゼンターはインターネットが普及した現状で各国の図書館状況などを報告した。(2)の分科会では、過去20年間にどれだけパブリック・アクセスが変化してきたかを報告した。上記のサリキン氏やIFLA事務局政策担当のワイバー氏のほか4人のプレゼンターが各国の状況について報告し、オンライン参加者もまじえての議論を行った。(3)の分科会では、(1)と同じくデジタルデバイド・包摂性を考えるためのネットワークを構築することを目的として設定したが、参加者が少なくやや期待はずれであった。この分科会ではEIFL(図書館への電子情報: Electronic Information for Libraries)のU.リペカITE氏がウガンダでの図書

館情報活動について報告したほか、上記のW.サリキン氏やオーストラリアからオンラインでT.ヘップワース氏(オーストラリア図書館協会)がオーストラリアの図書館事情について報告したほか、井上が日本の地方都市で地域活性化を行っている公共図書館活動を紹介した。紫波町図書館(岩手県)の例はケニアからの参加者に強い印象を与えたようで、分科会後しばらく熱心に詳しく聞いたがったのが印象的であった。

IGF のこれからは。

IGF はアジア太平洋 IGF (APrIGF) など地域ごとに IGF 会議が開催され、また Youth 会議がこれらにもなって開催されている。が、日本から若者が国際レベルで積極的に参加していないのはなぜなのだろう。今回の IGF 京都会議でも京都の情報関係の専門学校に通う中国などアジア系の学生の参加はめだったが、日本人学生の参加が少なかった。

また、現役図書館員の参加もあまり見受けられず、日本人参加者の多くはIT企業やネットワーク関連団体に所属している人々のようであった(私企業からの参加が36%と最も多かった)。海外からの参加者は図書館員も多く、前年エチオピアで開催されたためか、アフリカからの参加者も見受けられた。ほかの図書館関連会議でも同じようだが、現場の図書館員が自館の外へでて、新しい情報や知識などを得、自館のスタッフ以外の人々とも交流する機会を逃さないように、ぜひ積極的に参加してほしいものである。

来年はサウジアラビアのリヤドで開催される予定である。出来れば、図書館員や学生、障害者が参加されることを期待している。

参照 URL

https://www.intgovforum.org/en/filedepot_download/300/26575

(いのうえ やすよ: 獨協大学, IFLA2021-2023理事)
[NDC10: 0106 BSH: 1. インターネット 2. 国際図書館連盟]

「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」スタート

小形 亮

2023年10月18日、日本図書館協会で非正規雇用の図書館職員の処遇の改善のために、関係団体・個人による連携を図る意見情報交換の場として「図書館の非正規雇用改善のための連絡会」を行いました。

呼びかけ元である非正規雇用職員に関する委員会では、2021年2月に処遇の改善や公募によらない任用などを求めた「会計年度任用職員に関する提言」を作成公表しました。さらに2023年5月31日には会計年度任用職員および民間雇用で働く非正規職員も対象にした「図書館非正規職員の処遇についてのお願い」¹⁾を出し、全国の都道府県や市に送付しました。これについては記者会見を行ったためか、マスコミ等でも取り上げられ大きな反響を呼びました。

公共図書館の職員の76%が非正規雇用であり、学校、大学、専門などの図書館でも同様な状況にあります。この問題に取り組み改善を図っていくためには、日頃同様の目的を持ち活動している団体や個人との連携・協力が必要と思われます。そこで「連絡会」の設立を呼びかけたところ、多くの方々から賛同を得ることができました。

9月19日に準備会を開き、会の内容や性格について話し合いを行いました。そこで意見・情報交換の場として、また会の目的とはしないものの共同行動を行う下地となる場としての設立が決まりました。そして今回正式に発足したものです。

参加団体・個人は次のとおりです。日本図書館協会、図書館問題研究会、学校図書館問題研究会、官製ワーキングプア研究会、公務非正規女性全国ネットワーク（はむねっと）、上林陽治（立教大学）、日向良和（都留文科大学）の各氏。他にオブザーバーとして図書館友の会全国連絡会、学校図書館

を考える全国連絡会からの参加がありました。

連絡会では初めに各団体や個人からそれぞれの活動の目標や現在の取り組みについての紹介が行われ、次いで四つのテーマで意見交換を行いました。

出された主な意見を紹介します。

1. 会計年度任用職員について

○それまでばらばらであった非正規公務員の入口の整備が行われたが、制度設計を巡り検討段階で今のような問題のある制度になってしまった。ただ制度設計だけでなく職場の正規と非正規の相互関係という両方の観点で考えないと不十分である。雇止め問題の背景にあるのはなぜ年限を定めているのかという点である。国の非常勤制度とセットで検証していく必要がある。

○職員定数を条例で定めているがそれが縮減される中で、行政需要の拡大に対処するために作られたのが有期雇用のしくみである。安定した雇用でかつ十分な公共サービスを提供するためには定数制度をやめるべきだ。日本の雇用全体が変わっていく中で公務員制度をジョブ型の無期雇用に変えていく必要がある。処遇改善だけでは根本的解決にならない。安定した雇用の下で落ち着いて図書館運営を担っていける世界をどう築くのがこの問題の肝になる。

○会計年度任用職員制度が制度として破綻しているのは明らかだ。専門職を数年で恣意的に首を切れる制度にあてがうのでは公共サービスは瓦解してしまう。公共の再生を図るには正規公務員を増やしていくしかない。しかし、今働いている人をそのままにしてはおけないので、安定雇用にしていく必要はある。社会問題化していかななくてはな

らない。

○正規を取らないのと非正規が増えるのは表裏一体である。図書館法に司書の必置を求める法改正の運動を進めているが、必置になったといってもそれが正規になるとは限らないし、正規であっても専門職でないと意味がない。一方現在非正規で働いている人の処遇改善も必要であり、正規を希望しない人もいることを踏まえた上で生きていく賃金がほしい。

○なり手がいない状況は教員で著しい。国や自治体は図書館や教育にもっとお金を出してほしい。それが増えない限り個々の待遇が上がっても職員数が減ることになりかねない。

(まとめ)

非正規公務員が増える背景には正規職員の定数制度があり、総務省が定数削減を求めてきた政策にも大きな原因があります。「会計年度任用職員制度」に問題が多いのはそれぞれの共通認識です。制度の改善を求め当事者の処遇の改善を図っていくことは各団体が実際に取り組んでいるところです。

しかしそれだけでは問題は根本的に解決しません。安定した雇用としていくには正規の専門職としての司書、学校司書の任用を求めていくことが大事という声が多数でした。そのためには定数制度の廃止やジョブ型公務員など国の公務員制度の変革も視野に入れて行く必要があります。

非正規雇用の処遇改善、正規専門職の任用配置が二大目標となります。

2. 学校図書館職員の状況について

○学校図書館の状況は自治体によってばらばらである。正規職員の減少とパートタイムの会計年度任用職員の増加が連動している。都立高校では民間委託から会計年度任用職員に代わったが2人体制になった。片や民間委託や有償ボランティアのところもある。

○90年代以降小中学校に学校司書が配置されてきたが、専門でも、専任でも、正規でもない人が多い。ことに専門性が必要だがそうでない場合も多い。

○東京都内の小中学校調査を行っているがひどい状況にある。資格は比較的に問われるようになってきているが、1日5時間、週1～2日といった勤務もある。きちんと専門性のある正規の学校司書

を求めたい。

○学校司書が何校も兼任している状況がある。専門性だけでなく1校専任を訴えていくべきである。(まとめ)

学校図書館職員も公共図書館と同様、正規職員が減り非正規職員が増える傾向が見られます。雇用形態は正規職員から民間委託、ボランティアまでさまざまです。

また専門性について十分問われず任用される場合もあります。さらに学校図書館特有の問題として、1人の職員が複数校を掛け持ち兼任している状況が見られます。そのため正規専門職の配置、非正規雇用の処遇改善ばかりでなく、1校専任を求めて行く必要があります。

3. 民間雇用の非正規職員について

○勤務年数が短く、年取も低い方に固まっている。カウンターなど時間を有効に使う業務は評価されるが、レファレンスなどは評価されない。(税や社会保険料の負担を逃れるために)短時間勤務を望む人が多く、雇用者もそれを望んでいる。長期的にじっくり働こうという人と短時間の人と二極化している。働いている人は頑張っているが、人件費を削ろうとするとそうならざるを得ず、長期的には良くない。

○こちらの調査では図書館の勤務歴は長い人が多いが、一つの職場で勤務年数が短い。委託や指定管理の期間の問題もある。雇用止めはなく、無期雇用になった人も出ているようだが、それでも定着しないのは低い労働条件が影響しているのではないか。

○地方で自治体が学校司書の募集をしても人が集らず委託になるケースがある。採用状況がオープンになっておらず発信が共有できない。働く人は利用者の方ではなく、委託者の自治体の顔色をうかがいがちになる。

○同一労働同一賃金といっても同じ仕事の正規職員がいないと成り立たず、全員非正規といった図書館もある。最低賃金も上がってはいるが、まだ低い。また入ったばかりのひとと長年働いて高度な技能の人までが一括りになってしまう。職務内容に応じた賃金が必要ではないか。

○入札に出したが応札者が集まらず、不調になったところがあるようだ。最低賃金の伸びに対し、委託料の伸びが追いついていない。賃金だけでな

く入札改革も併せて考えて行く必要がある。

○公共サービスの事業者に人が集まらなくなっている。背景には発注元の責任がある。図書館に限らず公共サービスのあり方をどうするのか全国的なネットワークを作り声を挙げて行く必要がある。○都立高校の委託では人がそろえられなかったり、辞めたりで会計年度任用職員に代わったようだ。民間委託で働くのは（雇用先からの指示しか受けられず）学校側とコミュニケーションが取れず消極的にならざるを得ない。

（まとめ）

図書館職員の中で最も低い労働条件で働いているのが民間雇用の非正規職員と言えます。短時間勤務で比較的定型的業務で働く人と専門的業務のみならず管理的業務まで行う長時間勤務の人の二層に分かれるのは、日本図書館協会の神奈川調査²でも知られるところです。短時間層は各地域の最低賃金ぎりぎり働くことが多いようです。会計年度任用職員のような雇用止めがないにも関わらず労働条件の低さは定着を妨げています。一方一部には無期雇用の職員もいます。

また間接雇用であるため、住民ではなく委託者（自治体）の顔色をうかがったり、学校では学校側とのコミュニケーションが取れないなどの問題も生じています。

近年委託料の低さから入札の応募者がなく不調になったり、賃金の低さから働く人が集まらないという状況も見られます。日本図書館協会も「図書館非正規職員の処遇についてのお願い」で賃金の改善と公契約条例の制定を求めています。入札改革など公共サービスの在り方についての検討も必要とされます。この問題に関してはあまり取り組みがなされていないせいか、あまり活発に意見が出ませんでした。

4. 全体を通じて

○問題の解決には労働問題だけでなく社会問題としての観点が必要である。そのためには発信力が必要であり、多くの団体がまとまっていくこと、特に市民団体の参加が必要である。できればぜひ一緒にやっていきたい。

○共同していくところは共同する。声を合わせるところは合わせる。何よりも情報をしっかり共有していくことが必要である。社会問題化していくためには調査のデータを共有し精査して使えるも

のにしていくところから始めてはどうか。単なる処遇改善だけでは解決しない。図書館にもっとお金をかけられる社会を作っていくことも大切である。

○情報の共有は大事である。これからも日本図書館協会には住民と図書館員との連結になるような働きかけを続けてほしい。

（まとめ）

ここでは非正規雇用の問題は単なる労働問題に止まらず社会問題であることが強調されました。そのためには社会への発信が必要です。多くの団体や個人が共同して情報を共有し、声を出していくことが求められました。また図書館の重要性を広く社会に認識してもらい、図書館にお金をかけることができる社会の実現に努めていくことも確認されました。

2時間を越える討議になり、初顔合わせとしては大変有意義でした。公共、学校にまたがった図書館関係団体、非正規雇用に労働問題として取り組むNPO、図書館の市民運動の団体、それに個人研究者を加え、さまざまな角度から幅広い交流が出来たと思います。

図書館の非正規雇用問題は決して簡単に解決できる問題ではありません。そのためには多くの団体や人々が協力して取り組んでいく必要があります。それぞれ単独で行うだけでなく、広くまとまって声を出し活動していくことが求められているのです。今回がその第一歩となること願っています。

そしてこれからも定期的に開催し、情報の共有、合同のロビー活動、共同の集会の開催など連携の道を探っていききたいと思います。

注

1) 日本図書館協会 「図書館非正規職員の処遇についてのお願い」

<https://www.jla.or.jp/demand/tabid/78/Default.aspx?itemid=6996>

2) 日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会 「公共図書館における非正規雇用職員に関する実態調査結果」

https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/seisakukikaku/housakekka_20100608%202.pdf

（おがた りょう：JLA 非正規雇用職員に関する委員会委員長）
[NDC10：013.1 BSH：1. 図書館員 2. 非正規雇用]



霞が関だより

▶第242回

◎文部科学省

子供の読書活動優秀実践校・図書館・ 団体（個人）の取り組み事例について

文部科学省では、平成14年度から国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた取り組みを行っている学校、図書館及び団体（個人）を表彰しています。

今回の取り組み事例紹介は、令和5年度子供の読書活動優秀実践図書館として表彰された「清水町立図書館」（静岡県）よりご執筆いただきました。

清水町立図書館の取組 ー特性を活かした子ども読書活動の推進ー

清水町は静岡県の東部、沼津市と三島市の間に位置し、国道1号が町の北部を通過しており、東名、新東名高速道路や東海道新幹線三島駅にも近く広域的な交通の利便性に富むと同時に、町の中央には富士山の湧水が湧き出す柿田川が流れる、緑豊かで自然が美しいまちです。

旧町立図書館は柿田川に面した自然豊かな場所にありましたが、老朽化に伴い令和2年7月15日に現在の場所へ、清水町立図書館・保健センター複合施設「まほろば館」として生まれ変わりました。

現在の清水町立図書館においては、気軽に学び文化活動を楽しむ環境の充実を実現するため、隣接する清水町地域交流センターとともに、魅力ある文化的拠点の形成を目指し、幅広い世代への利用促進を図るとともに、保

健センターや小中学校・幼稚園・保育所だけでなく書店などとも連携し、子ども読書活動の推進に関する事業を展開しています。

図書館は1階がこども図書館、2階が一般図書館となっており、1階こども図書館の入り口には町のイメージキャラクター「ゆうすいくん」のステンドガラスがあり、こども図書館の中央部には清水町出身で町のふるさと大使でもある絵本作家宮西達也さんの絵本が集められた特設コーナーを設置し、その奥には大型絵本や紙芝居などを所蔵している「おはなしの部屋」があります。



▲「ゆうすいくん」のステンドガラス
（1階こども図書館入口上）



▲宮西達也さんのキャラクターが描かれた「おはなしの部屋」

また、おはなしの部屋の中や、こども図書館と保健センターの間に仕切るシャッターには、宮西達也さんのキャラクターが描かれており、子どもたちが楽しく本に親しむ環境を作り出しています。

清水町立図書館では、子どもの読書活動を推進し、表現力や創造力を育む特色ある事業を展開しています。

1. 書店との連携による地域の読書活動の推進

令和2年11月6日に、図書館や書店などを訪れる方々が思いがけない発見や出会いと交流によって啓発され、地域の読書活動を促進することを目的に、町内四つの大型書店と連携協定を結びました。

協定締結後、図書館において書店の売上ランキングの紹介や、書店員のおすすめ本の展示、また、子どもたちが図書館に所蔵する本を選ぶブックフェアを開催し、自分の好みにあった本を見つける楽しみを味わう機会を設



▲「町内書店と図書館が選んだ！おすすめ本の紹介」の展示
(1階こども図書館内)



▲書店の児童書の売り上げランキングの紹介
(1階こども図書館内)

けるなど、図書館と書店が連携し地域の読書活動の推進を図っています。

2. 幼少期からの読書活動

図書館では幼少期からの読書活動を普及させるため、毎月6か月児健康相談時に行っているブックスタート事業や、月2回のおおなし会の開催、ボランティア団体による幼稚園、保育所などへの読み聞かせなどを行ってきました。

また、絵本作家宮西達也さんにご協力をいただき、町内の小学6年生に対して「絵本の大切さや夢をもつことの大切さ」をテーマにしたおはなし会の開催や、図書館を会場としたおはなし会とワークショップを開催するなど、絵本を通して本に親しんでもらうための事業を積極的に実施しています。

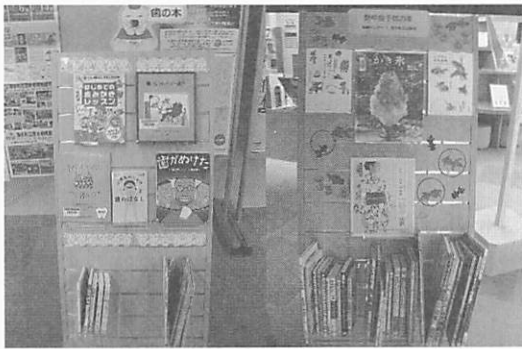


▲おはなし会
(1階こども図書館おはなしの部屋内)

3. 保健センターとの連携

図書館と保健センターとの複合施設となったことから、保健センターとの連携を図るため、図書館と保健センターにおいて共通のテーマを設定し、そのテーマに沿ったイベントの実施や特別展示などを実施しています。

また、保健センターの主催事業においては、図書館司書が読み聞かせや絵本の紹介を行い、図書館のおはなし会やイベントにおいては、保健師が健康に関する講話を行うなど、両施設が連携し、参加した子どもやその保護者に対して、読書と健康に関する情報の提供を行うなど、複合施設である特性を生かした事業を実施しています。



▲保健センターの啓発事業に合わせた図書の展示
(1階こども図書館入口)

4. こども図書館の展示・イベント

1階のこども図書館において、学校の夏休み期間に、子どもたちが郷土への興味を持ってもらうため、町内を流れる柿田川についての学習コーナーや郷土の歴史を学ぶコーナーなど、子どもたち自身で自分たちが住んでいる町について調べるためのコーナーを設置しました。



▲季節に応じた展示 (1階こども図書館内)

また、令和4年度には地元の絵本作家えがしらみちこさんの「あきぞらさんぽ原画展」を開催し、絵本と絵本原画を同時に見ることにより、子どもたちが絵本の世界に直接触れる機会をつくりました。

コロナ禍で集合型のイベント事業の開催が難しい中においても、自分の好きな本を書いたシールを貼り付けて絵を完成させる参加型展示「ぺたっと図書館」や世界の有名なアニメ等を上映する「こどもえいがかん」など、適切な対応を講じながら時季に応じたイベントを開催してまいりました。

子どもたちを対象とした図書館講座として、天体観測や科学実験、地元企業との連携による体験型イベントの開催にも積極的に取り組んでおり、子どもたちの好奇心を刺激しながら科学や自然に触れる機会を提供しています。

こうした事業を通じて子どもたちが図書館を訪れることで、本に触れる機会を増やし、少しでも本に親しむきっかけを作ることができていると考えております。

清水町は令和5年11月3日で町制施行60周年を迎え、その記念事業として清水町立図書館と清水町地域交流センターにおいて「宮西達也とステキな60点の絵本原画展」を開催し、絵本の読み聞かせやワークショップ、宮西達也さんと絵本作家真珠まりこさんとのトークイベントなどを行い、多くの子どもたちの参加を得ました。

今後も清水町の読書環境の特性と現状を踏まえて、家庭や地域、幼稚園・保育所、小中学校、協定締結書店と連携するとともに、絵本作家宮西達也さんにご協力をお願いし、絵本を活用した読書推進を積極的に取り入れるなど、それぞれの特性を活かしさまざまな角度から子どもの読書活動の推進を図ってまいります。

『子供の読書キャンペーン
～きみに贈りたい1冊～』
第2弾について

文部科学省では、2023年12月12日より、著名人による子供たちへのおすすめの本とメッセージ等を御紹介するキャンペーン第2弾を実施していますので、お知らせいたします。

1. 趣 旨

勉強や部活動等に向き合う子供たちが、様々な本に触れ、読書に親しめる機会が増えるよう、「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」を実施しています。

教育、科学技術・学術、文化、スポーツの各分野で御活躍の著名人の皆様からの子供たちへのおすすめの本とメッセージを、特設ページやSNS等を通じて御紹介します。

本キャンペーンは、読書週間（昨年10月27日）に第1弾を実施し、今回は第2弾です。今後、4月23日（子ども読書の日）まで複数回公表します。（第3弾は2月、第4弾は4月の予定）

2. 内 容

（1）著名人のおすすめ本と子供たちへのメッセージ

- ・今回（12月）は教育、文化、スポーツ分野の方々9名からの御紹介
- ・小学生と比べて、不読率[※]が高い中高生世代を想定した本が中心

※5月1か月の間に1冊も本を読まない児童・生徒の割合。小学生7.0%、中学生13.1%、高校生43.5%。（令和5年度「第68回学校読書調査」全国学校図書館協議会）

（2）その他

- ・読書関係団体等の関連リンク（各関係団体が選ぶおすすめの本等）

特設ページへのリンク

文部科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」

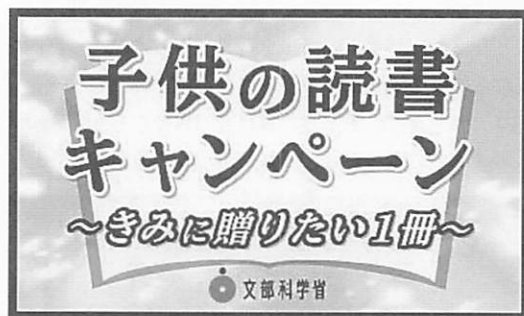
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/campaign_2023.html

3. ご活用について

子供の読書活動推進にかかる活動の折等に、機会がありましたら「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」をご活用くださいますようご協力をお願いいたします。

【活用例】（申請不要）

- 教育委員会・学校等が管理するホームページ、SNSに当該ページへのリンクを貼る。（文部科学省ホームページへのリンクであることを明記のこと）
- イベント等のタイトルに「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」の文言を使用する。
- ホームページやチラシ等に本キャンペーンのパナー、QRコードを掲載する。等



▲文部科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」パナー



▲文部科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」QRコード

[NDC10：019.5 BSH：1.読書 2.児童]

子供の読書キャンペーン

～きみに贈りたい1冊～

第2弾

文部科学省では、勉強や部活動等に向き合う子供たちが、様々な本に触れ、読書に親しめる機会が増えるよう、「子供の読書キャンペーン～きみに贈りたい1冊～」を読書週間（10月27日）から実施しています。

本キャンペーンは、教育、科学技術・学術、文化、スポーツの各分野でご活躍の皆様から子供たちへのおすすめ本とメッセージを、特設ページやSNS等を通じてご紹介するもので、今回は第2弾です。令和6年4月23日（子ども読書の日）まで複数回公表します。（第3弾は2月、第4弾は4月の予定）

皆様におかれましても、子供の読書活動推進のため、多くの方々に本キャンペーンをご周知いただけますと幸いです。

きみに贈りたい1冊

検索



第2弾（12月12日）公表のご紹介者・おすすめ本（敬称略・50音順）

	ご紹介者	おすすめ本
1	池 透暢 (いけ ゆきのぶ)	車いすラグビー選手 『「最高の自分」を引き出すセルフワーク・テクニック』 田中ウルヴェ京 著、祥伝社
2	大塚 達宣 (おおつか たつのり)	バレーボール選手 『ほたるいしマジカルランド』 寺地はるな 著、ポプラ社
3	鈴木 亜弥子 (すずき あやこ)	(公財)日本バラスポーツ協会 『もものかんづめ』 さくらももこ 著、集英社文庫
4	関 菜々巳 (せき ななみ)	バレーボール選手 『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ 著、文藝春秋
5	都倉 俊一 (とくら しゅんいち)	文化庁長官 『梅干と日本刀 日本人の知恵と独創の歴史』 『続・梅干と日本刀 日本人の活力と企画力の秘密』 樋口清之 著、祥伝社
6	福岡 雄大 (ふくおか ゆうだい)	バレエダンサー 『時生』 東野圭吾 著、講談社
7	町田 そのこ (まちだ そのこ)	作家 『小公女たちのしあわせレシピ』 谷瑞恵 著、新潮社
8	ヨビノリたくみ (よびのりたくみ)	教育系YouTuber 『「余剰次元」と逆二乗則の破れ 我々の世界は本当に三次元か?』 村田次郎 著、講談社
9	渡部 暁斗 (わたべ あきと)	TEAM JAPANシンボルアスリート ノルディック複合競技 『道をひらく』 松下幸之助 著、PHP研究所

【問合せ】

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課図書館・学校図書館振興室
電話：03-5253-4111（内線3030） MAIL：tosyo@mext.go.jp

図書館員のおすすめ本⑧5

ルポ新大久保 移民最前線都市を歩く

室橋裕和著 辰巳出版 2020 ¥1,600 (税別)

テレビやネットで多文化共生、多様性といった言葉を目にするが多くなったが、その意味を本当にわかっている人はいったいどれくらいいるだろうか。

本書は、コロナ禍真っ最中の2020年夏までの一年間、実際に新大久保に住んだ著者が、外国から来て新大久保で働く人、留学生、もともと住んでいた人たちが何を考え、どう暮らしているかを取材し、まとめたものである。それぞれの文化の違いから起こる軋轢や葛藤、新大久保の歴史、ここまで進んだ多国籍化の過程などがデータとともに書かれていた。そんな箇所は読んでいて緊張したが、日本人以上に日本人ばい外国の人の話や、江戸時代から伝わる大久保つつじをみんなで育てている小学生の話には、笑みがこぼれた。

この街のいろいろな出来事を経験してきた住人が「わかりあえる部分はたくさんあると思うんだ。歩み寄れる。日本人も外国人も、お互いいなきや困るんだ。」(p.366)と、語る場面には、こちらの胸も熱くなった。

私は2021年春に新宿区立大久保図書館で働くことになり、地域の人々への支援方法について参考にしようとそんな気持ちで、本書を手にとった。しかし、読んでいくうちに支援する側とされる側に区別することは間違っているなということに気付いた。

ちなみに、新大久保はご存知のとおり、エスニックフードの街だ。美味しいランチには事欠かない。たまに観光地価格に当たると、私のお財布は少々痛む。それでも、この街を知りたくて、お昼は外に繰り出している。

もし、あなたの街にいろいろな国の人が住むようになったら、『ルポ新大久保』を読んでほしい。本当の意味での多文化共生や多様性のヒントがこの中にはあるからだ。

(あらい みよこ
(新井三枝子：新宿区立大久保図書館)

花山院隊「偽官軍」事件 戊辰戦争下の封印された真相

長野浩典著 弦書房 2021 ¥2,100 (税別)

「偽官軍」として明治新政府により処断された草莽(にせかんぐん) (在野)有志の隊「赤報隊」の顛末はよく知られている。昭和前期、作家長谷川伸による労作『相楽総三とその同志』(さうろう) (上梓以降、その悲劇性から文芸・映像作品の題材にされ、平成期には人気漫画『るろうに剣心』(和月伸宏著)作中で描写されたため若い世代にも認識が広がった。だが赤報隊以外にも偽官軍として処断された草莽の隊が、維新史の裏面におお埋没しているのである。

本書が追究する「花山院隊」(かざのいん)は、偽官軍事件の第一号として記録される部隊だ。同隊に関しては、戦前の郷土史家の著作や、戦後一部の学術書で言及されるに留まり、全容が窺い知れる文献に乏しかった。本書は、その渇をいやす待望の書だ。

花山院隊は豊前豊後の草莽を中心に結成。公卿の花山院家理(いんえさと)を盟主に戴き、現大分県宇佐市で挙兵した。幕府陣屋を襲撃し牢獄から思想犯を解放するなど、フランス革命におけるバスティーユ襲撃に通じるような行動を見せた。摂取した金穀を被災民に分配するなど民心の獲得にも努めるが、明治政府軍によって討伐、自身を官軍として疑わなかった隊士たちは絶望の中で討死し首謀者は梟首された。高札には「盗賊の所業」と記された。

著者は如上の行跡を史料から丹念にたどり、さらに九州各地で相次いで発生した騒動が、花山院隊による一貫した討幕行動であったことを明らかにした。これら諸事件は今なお各自治体史で別個の暴動として扱われており、今後九州全土を俯瞰した見直しが進むだろう。

明治維新は、吉田松陰の思想「草莽崛起」(さうもうくつき)を継承する志士たちによって遂行された。その彼らが為政者となるや草莽の弾圧を始めたのはなぜか。本書は単に一地方史の記録に留まらず、「明治維新とは何か」という本質的な問いに示唆を与える基礎文献だ。日本近代史の棚に備えておきたい。

(いまいのよしろう
(家入義朗：くまもと森都心プラザ図書館)

図書館員のおすすめ本⁸⁵

ザ・ママの研究 増補新版

信田さよ子著 新曜社 2019 ¥1,400 (税別)

実際に起こった事件のルポルタージュとして2022年に出版された『母という呪縛 娘という牢獄』(齊藤彩著 講談社)を読んで、思い出されたのがこの本である。

この本は、題名のとおり母親を研究して「母親」と良い関係を作るための方法を教えてくれる。著者はカウンセラーとして長年活躍し、DV、虐待、家族関係に関する書籍などを多数出版している。一貫して、「母親と距離を置くことは悪くない」「もっと楽しい関係を生み出そう」というメッセージを発している。子どもが母親とより良好な関係を築けるようにするための手引書ではあるが、現在進行形の子どもだけでなく、大人も自分の過去と今を振り返ることができる。私自身、内なる子どもと母親の両方の立場で読んで、二重に心が痛くなった。自分の家族関係を新たに見直したい人にもおすすめの一冊である。

ママ研究は、まず母のタイプを7つに分類する。「超ウザママ」「スーパーポジティブ・パーフェクトママ」「かわいそうママ」「夢みるプチお嬢」「ツンデレ小悪魔ママ」「フツ〜すぎママ」「恐怖の謎ママ」だ。自分の母親のタイプがどれなのか、他にはどんなタイプがいるのかとあれこれ考えるうちに自分と母親を少し切り離して考える目が開かれる。次に、母親を観察して不思議リストを作って言語化する。そうやって自分の母親を対象化し、客観的に捉えるための方法が具体的に示されていく。

本書は2010年に出版されたものに「パパ」と「ばあば」研究が加わった増補新版である。ママ研究に関しては旧版が出版されてから13年を経ているが、古さを感じない。一方、「パパ」は旧来の典型的な父親像なのが気になる。ここ10年で父親の役割はだいぶ変化したという体感があるのだが、それが社会的な現象として数十年先には現れてくるのか、気になるところである。

(合屋月子：小林聖心女子学院ソフィーセンター)

転職学 働くみんなの必修講義 人生が豊かになる科学的なキャリア行動とは

中原淳, 小林祐児, パーソル総合研究所著 KADOKAWA 2021 ¥1,600 (税別)

タイトルを見たとき「転職って学問になり得るのか!」と驚くと同時にとても興味が湧いた。私には転職経験があり、友人から転職すべきか相談されていたこともあって、何かヒントを得られればと読み始めた。

本書は、離職、転職、新たな組織への定着という「転職にまつわる一連のプロセス」を探究した、とても珍しい本である。これからの労働市場を生き抜くために、誰もがその実態を知ることが必要だと著者は言う。

「転職学」は12,000人のインターネット調査モニターを利用した大規模調査(2019年~2020年)を基にしている。簡単なセルフチェックから職場への不満レベルや離職意向の高さが数値でわかる。

著者は、人が転職を決意するのは、職場の「不満」からではなく、職場の不満が「解消されない」ことを悟り「転職の決定」「心身の健康の悪化」「同僚の退職」「知人からの転職の誘い」といった「最後のダメ押し」が重なったときだと指摘する。さらに、転職には「抵抗感」もつきまとう。現在の労働環境を変えることにより、心理的にも物理的にも負荷やストレスがかかるからだ。大いに頷きながら読んだ。

本書は科学的にアプローチされていて、理解が難しいと感じる部分も否めないが、転職には方程式がある等、興味深い内容の連続だった。

読後、身近な人に「転職学って知ってる?」と聞いてみたが知っている人はいなかった。「転職学」という稀有な学問を知っていると思っただけで何だか嬉しくなってくる。転職すべきか悩んでいた友人にも紹介したら「そんな本があるんだ!」と驚いていた。果たして読んでくれたかな?

(小林はつき：公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館)

[NDC10:019.9 BSH:書評]



図書館雑誌では、「北から南から」欄への会員のみなさまからの投稿をお待ちしています。館界や本誌へのご意見、個人やグループなどの活動報告、研究成果、また、日常業務の中で工夫していることなどを、下記の要領でお寄せください。

★字数：1200～3800字程度（図版・写真を含む）

★送り先：〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

日本図書館協会 図書館雑誌編集委員会「北から南から」係
(FAX (03)3523-0841でも受け付けいたします)

「子ども司書講座」を実施して

鈴江 夏

横浜市港北図書館では、今年（2023（令和5）年）の夏に市内で初めて「子ども司書講座」（全3日間・計12時間）を実施したので簡単に報告したい。

「子ども司書」の取り組みは、文部科学省「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（2023年3月）の「子どもの読書への関心を高める取組」で、第四次計画に引き続いて言及されたこともあり、関心が高まっている。もともとは2009

（平成21）年、福島県矢祭町で始まり、北日本を中心とした比較的中小規模の自治体で行っていることが多いイメージだったが、2023年度内の実施状況としては、10月末までで全国70前後¹⁾の自治体にまで実施が広がっている。今年の5月ごろに確認した時より新規の自治体が増えた印象である。なお、日本図書館協会からは『子ども司書のすすめ』（アンドリュース・デュアー／著 2021年）が刊行されており、手引きとなっている。

平成以前から横浜市立図書館の数館では、「一日図書館員」イベントが行われてきた。館内見学、カウンターや調べもの体験などを行う半日程度のもので、現在も実施している市内の図書館は多い。矢祭町の「子ども司書」がメディアで大々的に取り上げられた際には、「目新しいことをしている訳ではないのでは？」と思った事を記憶している。

では、「子ども司書」と「一日図書館員」の違いは何だろうか。「子ども

司書」とは、「子供同士の読書のリーダー。しっかりした養成講座で司書の仕事、図書館の仕組み、魅力的な本の紹介方法などを習って、学校と図書館と地域で活躍する」²⁾。そして養成した子どもたちが学校や地域で「読書のリーダーとして活躍する」としている。単なる体験イベントを超えて、子どもたち自身による読書推進を目指しているのが、「子ども司書」の目的であろう。

今回、港北図書館では市内の先行例がないため、従来の「一日図書館員」のプログラムに加え、ふだん司書が行っている業務や職業体験時のプログラムを動員して内容を準備した。もともと「子ども司書」に着手したのは、国の読書計画に挙がっていることや「子ども自身による読書推進」というタームがこども家庭庁発足等、時流になっているからという下心もあったが、子どもたちと顔の見える関係を築きたいとの思いもあった。横浜市の場合、子ども向けイベントは半日の設定が多いが、半日のプログラムでは、内容の実施に精一杯で、子どもたちの顔を覚えたり、本にまつわる雑談をする暇などはほとんどない。以前のように図書館に一日中いて、なんとなくカウンターに寄って来て司書と雑談する

子ども司書 3回連続講座

図書館のつらねを体験
おうちでできるPOPアップを作って
港北図書館にかぎらず
読書の楽しさを伝える力を身につけよう、みんなで作ろう！

対象 区内在住の小学校3・4・5・6年生
第1回 7月1日(土) 館内見学・実習3時
第2回 8月4日(金) ゴキウリ、カウンター体験2時
第3回 9月2日(土) 読み聞かせ、読み聞かせの準備
全3回終了後、参加者全員が「子ども司書」の認定証を受け取る

会場 港北図書館
対象 区内在住の小学校3・4・5・6年生
人数 10人程度
申込 6月14日(水) 午前9時30分から
港北図書館カウンターまたは電話で受付
※お申し込みの際は、参加費として100円を徴収いたします

問合せ先 横浜市港北図書館
Tel: 044-421-1211 Fax: 044-421-1212
Web: 港北図書館 港北図書館 港北図書館

●申込期間 6月14日～6月15日 午前9時30分～午後7時
●申込方法 電話・メール・FAX
●申込先 港北図書館 港北図書館 港北図書館

という子どもも昨今はあまりいない。一方、児童サービスを行う上で、子どもたちと顔の見える関係を築くことはとても重要である。数日間にわたるイベントを行う中ではそれがかなうのではないかと考えた次第である。幸い館内でも賛同が得られて実施することになった。

参加者の想定としては、小学3年生から6年生の「読書に関心のある」子どもたちとした。当館の位置する港北区は市内で子ども人口が一番多く、教育に対する関心の高い地域でもある。子ども司書の実施日設定にあたっては、近隣の複数の中学受験塾に夏期講習の日程を確認し、目がかぶらないように配慮した。また、準備期間を取るために7月から9月までの月1回実施とした。6月に申込を開始したところ、定員10人に対して、61人の応募があった。コロナの5類移行に伴い、久しぶりに「体験イベント」的なものが開催されたこともあるのかもしれないが、「子どもの読書」に対する関心の高まりを感じた。定員をオーバーして16人(小3・6人、小4・4人、小5・5人、小6・1人)が講座を受講した。簡単にプログラムなどを紹介したい。

1回目／自己紹介(+好きな本の紹介)、館内見学、分類や配架についてレクチャーを受けた後の「配架」「調べもの体験」等。事後のアンケートで読書習慣やゲーム時間についても質問したところ、市の調査平均より読書に親しんでおり、かつ、電子機器への接触時間は短いようだった。好きな本は『ぼくらの七日間戦争』や『戦国姫』など、日本の作家の物語が比較的多かった。

2回目／カウンター体験、子どもたちのおすすめ本のポップ作成、司

書のブックトークを聞く等。後日、ポップとともに展示した本はあつという間に借りられた。ポップやブックトークなど、「本をおすすめする」方法や技術についても少し考えてくれたようだった。2回目ともなると大方の子どもの顔と名前が一致してきた。

3回目／予約の本を棚から探す「在庫確保」、本のコーティング、絵本の読み聞かせ実演等。読み聞かせに関しては、司書が事前にレクチャーし、自宅でも宿題として練習してもらったのだが、一般のお客さんもある前で緊張したことだろう。神妙な面持ちでおはなし会を行ってくれた。それぞれの子どもの味わいが出て、とても楽しいものだった。

3回の講座すべてに参加すると「子ども司書」に認定する、としていたのだが、見事、参加者16人全員が3回すべてに出席し、館長から「子ども司書」認定証を授与された。事後アンケートで「自分の学校や地域で活動してみたい」と回答した子どもは10人だった。11月に横浜アリーナで行われたイベントでは、一部の子どものために絵本の読み聞かせをしてもらった。

カウンターに出ている際、手を振ったり、雑談できる子どもたちができたのは単純にうれしい限りである。また、ごく少数とはいえ子どもたちから情報収集できる強みもできた。

初めての試みを終えて思うのは、町ぐるみで子ども司書に取り組むことができる規模の都市とは異なり、地域や学校と連携して子どもたちの活動の場を広げることの難しさとともに、子どもたちが自ら考え発信していくには、もっと長い時間と手間

をかける必要があるということである。この時期の子どもたちのライフステージは変化しやすいので、期間限定になるにしても、しばし子どもたちとつながって活動の場を提供したり、自発的に取り組んでもらうためには、家庭を巻き込んで継続的に情報提供する必要性があるように思う。

また、反省点としては、16人という参加人数は職員が2～3人ついていたとしても目配りが難しかったこと、読書やSNSについて深く考えたり、自発的に活動してもらうための準備が足りなかったこと、小学校3年生にはやや難しい内容もあったこと、等が挙げられる。

「子ども司書」は、規模の大きい都市ではまだ実施例が少ないようではあるが、司書と子どもたちの関係が希薄になりやすい大都市の図書館でこそ実施する意義があるのではと感じている。ぜひまだの館はご検討いただくとよいかもしれない。当館でも今年度の実践を踏まえて、来年度の取り組みに生かせればと思う。

注

- 1) 全国子ども司書講座ガイド(うちどく.com 家読推進プロジェクト公式ホームページ)
http://uchidoku.com/htdocs/?page_id=56
掲載自治体をもとに当該自治体ホームページで実施状況を確認(参照2023-10-27)。
- 2) 「子ども司書制度 養成・意義・発展」(アンドリユー・デュー)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/shiryo/_icsFiles/afidfile/2017/10/23/1396978_004.pdf (参照2023-10-27)。
(すずえ なつ: 横浜市港北図書館)
[NDC10: 015.93 BSH: 児童サービス]

移動図書館を使った学校との連携

ー我孫子市民図書館：子どもの読書活動推進計画重点施策ー

穂村喜代子

1. はじめに 我孫子市の移動図書館

我孫子市民図書館では、1978（昭和53）年8月から移動図書館「そよかぜ号」を稼働しています。市内13ステーションへ3,000冊を積載し蔵書数は8,500冊からのスタートでした。

その後、図書館整備が進み、紆余曲折はあったものの、2023（令和5）年度現在は、中央館に位置付けているアピスタ本館、分館である湖北台分館・布佐分館の固定館3館と移動図書館（16ステーション）でサービスを展開しています。

図書館整備が進む中、利用は伸び続けましたが、それに資料費が追いつかない現象が何年か続き、固定館の整備が完了したのであれば、移動図書館を廃止して資料費を固定館に回していく方法は考えられないか検討されました。ちょうどそのころ、移動図書館を廃止する自治体が増えていました。

しかし、我孫子市の地形は横長で、固定館が3館では、市内を網羅できないため、今後も活用していく方針となりました。

それから、少子高齢化現象や東日本大震災をさかいに図書館利用は利用者数・貸出数ともに減少に転じていきます。そんな中で活路が期待されたのが移動図書館でのサービスです。図書館に足が遠のく利用者の近くに機動力を生かして巡回することで、住民の読書活動を支えていくのではないかと考えました。特に子

どもたちは、学校生活や習い事などの理由から、放課後も休みの日も図書館に出かける時間がないように見受けられます。そのため、固定館からもっとも遠い小学校に移動図書館を巡回させる試みを2019（平成31）年から始めました。

2. 学校巡回開始の経緯と意義

市内でも児童数が多い地域なのに図書館利用が少ない小学校がありました。児童の図書館利用を促進していくにはどうしたらよいか、図書館に来てもらうよりこちらから出向くしかないのではないか。そう思っていたとき、ちょうど私の同郷である教員が利用の少ない地域の小学校の校長に就任しました。早速、移動図書館の巡回を提案してみました。

保護者も読書に対して意識が高い小学校であり、理解が早い校長はふたつ返事で承諾してくれました。多くの児童が利用できるよう、巡回は昼休み、クラス単位で児童が自由に選び、クラスの団体利用カードで貸出、教職員も個人の利用カードで貸出可能とし、巡回日程にあわせて借りる学年を決めて、我孫子市初の学校巡回が始まりました。

子どもたちは本がいっぱい詰め込まれた車（移動図書館車もはたらく車ですね）に大喜びで集まってきて、車内は10人以上の子どもたちですし詰め状態でした。借りた本を教室まで運ぶのも児童自身にしてもらいました。実際に本を手にとって、自分で

自由に選べることの喜びを味わってもらえたと思っています。児童書の貸出冊数が一気に伸びたのは言うまでもありません。

その後、まもなくもう一校巡回することになるのですが、そのきっかけは、「子ども議会」において図書館から遠い地域の小学生から提案があった「図書館の充実について」でした。遠くてなかなか図書館に行けないので、自分たちの家の近くにもすてきな図書館がほしいというものです。新しく建設するのは無理だが、移動図書館を巡回させることはできるのではないかと思います。すでに一校で実施していたため、すぐに決断できました。

こうして始めた学校巡回は、その後、期せずして大きく拡大していくことになります。

2020（令和2）年3月から世界中を困らせているコロナ禍は、学校や図書館での読書活動推進にも影を落とします。図書館利用は減るしかないのか…。どの自治体も悩んだことでしょう。

そのとき、学校巡回の経験が生まれました。すでに巡回していた2校への貸出再開がすぐにできたことで、他の学校にも巡回する手段を考えました。もう一台車両を購入して、地形的に校内に進入できない1校をのぞく市内の小学校12校と中学校1校へ2021（令和3）年10月から学校巡回を始めたのです。コロナ禍が続く中ですので、車内にすし詰めの利用はお預けですが、新車両は子どもたちにも大人気となりました。

子どもたちの利用減少を憂いて始めた学校巡回は、新型コロナのおかげ（？）で市内はほぼすべての小学校に広げることができたのです。

2022(令和4)年度からは、校内に進入できない1校には本を箱に詰め込んで、小さい公用車で巡回するようになり、これをもって市内全小学校への定期的な巡回が叶いました(この学校だけ、手賀沼のうなぎさんがペイントされたかわいい車ではないので申し訳ない気持ちではありますが)。

3. 成果

貸出の数をもって成果と言い切ることはできませんが、驚くべき数字が出てきました。移動図書館の年間の貸出数はコロナ禍前の2017(平成29)年度で24,357冊、学校全館巡回をフルにおこなった2022年度は52,299冊となり、約倍の貸出数となったのです。そのうち学校巡回のみの数字は約4割、子どもたちのパワーを感じます。学校間での冊数の差はあるものの、子どもたちのそばに本がある環境を提供できたことは間違いないと思っています。

また、子どもが自身で本を手にする機会も提供でき、自主的な読書活動に近づいていることも感じます。これまでも学校には学級文庫という団体貸出をおこなっていましたが、このときは図書館員や学校ボランティアが図書館の本を選び、届けていましたので、大人が用意した受動的な読書活動でした。自身で本を選べることで能動的になりました。また、どの本を選ぶかの過程で友達や先生、図書館のスタッフとの会話も生まれ、毎回移動図書館の巡回を楽しみにしてくれる子どもたちが増えていきました。

また、以前より図書館から調べ学習用の本を団体貸出していましたが、その運搬方法が懸案事項でした。各小学校の教員が図書館に取りに來なくてはしなかったからです。し

かし、今では日程を調整してもらって移動図書館の学校巡回で運搬できるようになり、懸案事項は大きく前進となりました。

4. おわりに 今後目指すもの

子どもの数は確実に減ってきています。図書館で待っているだけでは利用は見込めません。だからといってやたらと主催事業を増やしても、参加者は特定の利用者になっていく上にすべての子どもにはなかなか行き届きません。「我孫子市子どもの読書活動推進計画」では、「我孫子市で育つすべての子どものために」とうたっています。学校はすべての子どもが通うのですから、計画を推進していくためには欠かせないのです。移動図書館を利用することで将来の図書館利用者を育成していければと思っています。



▲大社玲子挿絵(我孫子市民図書館オリジナル)

移動図書館の巡回時に、教育総務部指導課の発案で「おすすめ本カード」という小さな紙を持っていっています。子どもたちがおすすめする本を紹介するものですが、市内全校に巡回しているからこそ書いてもらう意義があります。小学生のうち是他校の子どもと接する機会は少ないものですが、自分がおすすめる本を紹介することで市内全校の児童がつながれるといいなという思いがあります。また、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう自分の感じたことを他者に伝えられるようになってほしいという思いも入ってい

ます。

学校図書館と市民図書館はすでに20年前から連絡会議を開催し、学校図書館運営がよりよく進むよう連携してきています。「我孫子市子どもの読書活動推進計画」を策定した2019年からは、より発展させて、教育委員会の関係各課が学校図書館支援センター機能を意識して事業を行っています。そのひとつに、学校司書の連絡会(研修会もかねています)開催がありますが、年に10回程度実施し、学校司書が横のつながりを持てるような会となってきました。学校司書には、移動図書館巡回にできるだけ立ち合い子どもたちがどんな本をどんな様子で選んでいるか見てもらうようにしています。勤務日数が少なくやりくりが大変ではありますが、子どもたちが頼りにしているのはいつも学校にいてくれる学校司書であり、その存在は大きいと思っています。

今後は、学校司書と連携して貸出を学校図書館の選書に役立てること、「おすすめ本カード」を利用した子どもたちのつながりを創出すること、学校巡回時の保護者への貸出などを目標として、読書活動推進にも学習指導要領にもつながる移動図書館の学校巡回を継続していきます。



(あきむら きよこ:我孫子市民図書館)
[NDC10:015.5 BSH:自動車文庫]

『図書館雑誌』バックナンバーのご案内

(定価は税込み。各号の在庫状況については、出版販売係 ☎03-3523-0812に直接お問い合わせください)

- ◆2019年1月号 (Vol.113 No.1) 平成30年度(第104回)全国図書館大会ハイライト 1,026円
- ◆2019年2月号 (Vol.113 No.2) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円
- ◆2019年3月号 (Vol.113 No.3) 特集=防災・減災を考えるーその日に備えて 1,026円
- ◆2019年4月号 (Vol.113 No.4) 特集=これから図書館で働く人たちへ 1,026円
- ◆2019年5月号 (Vol.113 No.5) 特集=平成の図書館 ピックアップ 1,362円
- ◆2019年6月号 (Vol.113 No.6) 特集=図書館のウェブデザイン 1,026円
- ◆2019年7月号 (Vol.113 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト 1,026円
- ◆2019年8月号 (Vol.113 No.8) 特集=NDC90周年とNCR2018刊行を記念して 1,362円
- ◆2019年9月号 (Vol.113 No.9) 特集=ボランティアとの協働を考える 1,026円
- ◆2019年10月号 (Vol.113 No.10) 令和元年度(第105回)全国図書館大会への招待 1,026円
- ◆2019年11月号 (Vol.113 No.11) 特集=スマホ世代と大学図書館 1,026円
- ◆2019年12月号 (Vol.113 No.12) 特集=情報リテラシーをめぐって 学校図書館を核に／
小特集=IFLA アテネ大会レポート 1,362円
- *
- ◆2020年1月号 (Vol.114 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円
- ◆2020年2月号 (Vol.114 No.2) 令和元年度(第105回)全国図書館大会ハイライト 1,026円
- ◆2020年3月号 (Vol.114 No.3) 特集=災害から考える図書館 1,026円
- ◆2020年4月号 (Vol.114 No.4) 特集=読書バリアフリー法と図書館ー一步を踏み出す前に 1,026円
- ◆2020年5月号 (Vol.114 No.5) 特集=図書館とオリンピック 1,362円
- ◆2020年6月号 (Vol.114 No.6) 特集=児童・生徒の学びをサポート! 博物館図書室 1,026円
- ◆2020年7月号 (Vol.114 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト 1,026円
- ◆2020年8月号 (Vol.114 No.8) 小特集=AIを活かす図書館 1,362円
- ◆2020年9月号 (Vol.114 No.9) 特集=コロナ禍における図書館の現在 1,026円
- ◆2020年10月号 (Vol.114 No.10) 令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会への招待 1,026円
- ◆2020年11月号 (Vol.114 No.11) 特集=新型コロナウイルス流行下における大学図書館の非来館型
サービス 1,026円
- ◆2020年12月号 (Vol.114 No.12) 特集=電子メディアと学校図書館ーコロナ禍は、学校図書館の
「電子書籍元年」をもたらすか 1,362円
- *
- ◆2021年1月号 (Vol.115 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺 1,026円

◆2021年2月号 (Vol.115 No.2) 令和2年度(第106回)全国図書館大会和歌山大会ハイライト	1,026円
◆2021年3月号 (Vol.115 No.3) 特集=東日本大震災から10年	1,026円
◆2021年4月号 (Vol.115 No.4) 特集=SDGsと図書館	1,026円
◆2021年5月号 (Vol.115 No.5) 特集=図書館員養成100周年	1,362円
◆2021年6月号 (Vol.115 No.6) 特集=図書館と公民館との連携を考える	1,026円
◆2021年7月号 (Vol.115 No.7) 特集=健康・医療情報のリテラシー	1,026円
◆2021年8月号 (Vol.115 No.8) 特集=図書館の話題アラカルト	1,362円
◆2021年9月号 (Vol.115 No.9) 特集=地域資料のいまとこれから	1,026円
◆2021年10月号 (Vol.115 No.10) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会への招待	1,026円
◆2021年11月号 (Vol.115 No.11) 特集=国立国会図書館のデジタルシフト	1,026円
◆2021年12月号 (Vol.115 No.12) 特集=コロナ後の学校図書館へ／ 小特集=IFLA2021オンライン大会レポート	1,362円

*

◆2022年1月号 (Vol.116 No.1) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2022年2月号 (Vol.116 No.2) 令和3年度(第107回)全国図書館大会山梨大会ハイライト	1,026円
◆2022年3月号 (Vol.116 No.3) 特集=図書館と命名権(ネーミングライツ)	1,026円
◆2022年4月号 (Vol.116 No.4) 特集=広がる広げる 子どもの読書環境としての公共図書館の今	1,026円
◆2022年5月号 (Vol.116 No.5) 特集=電子書籍と公共図書館-非来館型サービスとしての電子図書館	1,362円
◆2022年6月号 (Vol.116 No.6) 特集=図書館の広報を考える	1,026円
◆2022年7月号 (Vol.116 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2022年8月号 (Vol.116 No.8) 特集=認知症にやさしい図書館を目指して	1,362円
◆2022年9月号 (Vol.116 No.9) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会への招待	1,026円
◆2022年10月号 (Vol.116 No.10) 特集=大学にある児童図書館(室)	1,026円
◆2022年11月号 (Vol.116 No.11) 特集=図書館と個人文庫・文学館	1,026円
◆2022年12月号 (Vol.116 No.12) 特集=「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ／ 小特集=IFLA ダブリン大会レポート	1,362円

*

◆2023年1月号 (Vol.117 No.1) 令和4年度(第108回)全国図書館大会群馬大会ハイライト	1,026円
◆2023年2月号 (Vol.117 No.2) 特集=トピックスで追う図書館とその周辺	1,026円
◆2023年3月号 (Vol.117 No.3) 特集=図書館の空間をデザインする	1,026円
◆2023年4月号 (Vol.117 No.4) 特集=コロナ後の図書館員の学び・交流	1,026円
◆2023年5月号 (Vol.117 No.5) 特集=県立図書館は今	1,362円
◆2023年6月号 (Vol.117 No.6) 特集=既存図書館のリニューアル	1,026円
◆2023年7月号 (Vol.117 No.7) 特集=図書館の話題アラカルト	1,026円
◆2023年8月号 (Vol.117 No.8) 特集=図書館と展示-資料から広がる世界	1,362円
◆2023年9月号 (Vol.117 No.9) 特集=図書館のビジュアルアイデンティティ	1,026円
◆2023年10月号 (Vol.117 No.10) 令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会への招待	1,026円
◆2023年11月号 (Vol.117 No.11) 特集=表現する図書館員-書くことのすすめ	1,026円
◆2023年12月号 (Vol.117 No.12) 特集=2023年学校図書館の今 そしてこれから／ 小特集=IFLA ロッテルダム大会レポート	1,362円

会員募集のご案内—会員の皆さまへ

日本図書館協会（JLA）では正会員、準会員、賛助会員を募集しております。

本法人は、全国の図書館の発展、文化の進展を図る事業を行うことにより、人々の読書や情報資料の利用を支援し、もって文化、学術、科学の振興に寄与することを目的としています（定款第3条）。

これからの日本の図書館界に清新な活力を注いでくださる皆さまのご参加を求めています。会員の皆さまにおいては積極的な勧誘をよろしくお願い申し上げます。

詳細については本法人ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/membership/tabid/270/Default.aspx>



日本図書館協会の活動を豊かなものにするために

ご寄附のお願い

本法人は、全国の図書館の進歩・発展を図るため、図書館運営の支援および政策提言、図書館職員の育成並びに研修・講習や図書館運営に関する調査・研究・資料収集、機関誌等の刊行など、図書館活動を通じたさまざまな事業を展開しています。

こうした公益目的にかなう事業のさらなる充実を図り、21世紀のよりよい文化的社会を築いていくため、広く市民や会員の皆さまからのご寄附を受け付けております。

なお、本法人への寄附金には特定公益法人としての税制上の優遇措置が適用され、所得税・法人税の控除が受けられます。

詳細については本法人ホームページ「ご寄附について」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>



charibon^{チャリボン} by V.B

あなたの本のご寄附が全国の図書館を支えます。



皆様の読み終えた本が図書館をサポートする活動に役立ちます。ご提供いただいた書籍、CD、DVD等を提携会社が買い取り、代金が日本図書館協会への寄附金となります。段ボールに詰めてご連絡ください。5冊（点）以上なら送料はかかりません。

古本を寄附
書籍類を梱包

集荷
配送会社

仕分け・査定
VALUE BOOKS

ファンドレイジング
日本図書館協会

5冊から送料無料

買取相当額の寄附

<https://www.charibon.jp/partner/jla/> TEL:0120-826-295（パルビューブックス）



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名） 注記 ISBN 価格 NDC 記号」

要覧：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種、テーマによる NDC 記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC 記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係

図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

二十歳の心 いつまでも ワークキャンパー 松岡享子さん 松岡享子さんを偲ぶワークキャンプ仲間の会 編刊 2023.09 79p 21cm 非売品 010.28

特集 新型コロナウイルス感染症と図書館への影響 図書館年鑑2021抜刷 日本図書館協会編刊 2021.09 p228-390 26cm 978-4-8204-2105-4 ¥1500 013

図書館のひみつ 本の分類から司書の仕事まで 高田高史監修 PHP 研究所 2016.04 63p 29cm 楽しい調べ学習シリーズ 978-4-569-78544-8 ¥3000 015

つたえたいきもち LLマンガ 津島つしま [著] 吉村和真、藤澤和子 [監修] 樹村房 2023.11 109p 21cm 978-4-88367-385-8 ¥1500 015.97

図書館員のための「やさしい日本語」 阿部治子、加藤佳代、新居みどり著 日本図書館協会 2023.11 87p 21cm JLA Booklet 15 978-4-8204-2307-2 ¥1000 015.98

地域に教育と文化を 茅ヶ崎の公民館づくり運動 社会と私の交差点 西山正子著 旬報社 2023.11 v, 220p 20cm 978-4-8451-1852-6 016.2137

慶應義塾図書館史 II 慶應義塾図書館史II編集委員会編 慶應義塾大学メディアセンター 2023.10 viii, 337, 70p, 図版18p（ページ付なし） 22cm 978-4-600-01342-4 017.702

図書館等公衆送信サービスを始めるために 新著作権制度と実務 日本図書館協会著作権委員会編 日本図書館協会 2023.10 86p 21cm JLA Booklet 14 978-4-8204-2306-5 ¥1000 021.2

未来をひらく子どもと本 希望はめぐる 本から人へ 人から人へ 第55回日本子どもの本研究会全国大会実行委員会編刊 2023.07 56p 30cm（第55回日本子どもの本研究会全国大会要項 2023年7月29日・30日） 023.09

ウォーナーの謎のリスト シネマボックス編刊 2016.10 29p 30cm 映画「ウォーナーの謎のリスト」パンフレット 2016年 日本映画/上映時間116分 ¥773 778

子どもに本を手渡す 児童文学基礎講座 令和4年度 国立国会図書館国際子ども図書館編 国立国会図書館 2023.09 117p 30cm 国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 講義日程：令和4年11月28日～29日 録画配信日程：令和4年12月23日～令和5年3月31日 978-4-87582-915-7 909



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

静岡県の図書館 令和5年度 静岡県立中央図書館企画振興課振興班 2023.09 49p 30cm

図書館年報 令和4年度（2022） まちづくり津島 023.07 京都市図書館統計概要（令和5年度） 京都市生涯学習振興財団 2023.07 32p 30cm 内容：令和4年度統計

数値による京都市図書館の概要 年報（令和4年度（2022年度）） 宇治市中央図書館 2023.10 28p 30cm

吹田市の図書館活動 令和4年度（2022年度）統計 吹田市立中央図書館 2023.09 66p 30cm

豊中市の図書館活動 1 報告（令和4年度（2022年度）版） 豊中市立岡町図書館 2023.09 30p 30cm

豊中市の図書館活動 2 統計・資料（令和4年度（2022年度）版） 豊中市立岡町図書館 2023.09 40p 30cm

図書館活動報告（令和4年度） 熊取町立熊取図書館 2023.10 25p 30cm

島根県公共図書館年報（令和5年度） 島根県公共図書館協議会事務所 2023.10 37p 30cm

- 年報 (令和4年度) 岡山県立図書館 2023.08 77p 30cm
 年報 (令和5年度) 徳島県立図書館 2023.08 49p 30cm
 要覧 (令和5年度) 福岡県立図書館 2023.08 27p 30cm
 図書館要覧 (令和4年度) 荏田町立図書館 2023.10 31p 30cm
 市町村読書関係実態調査 (令和5年度 (2023年度)) 熊本県立図書館・熊本県図書館活動振興協議会 [2023.09] 85p 30cm 内容: 令和5年 (2023年) 3月31日現在
 鹿児島県の公共図書館 (令和5年 (2023年) 版) 鹿児島県図書館協会 2023.10 51p 30cm



館報 協会報 機関誌

●日本図書館協会

現代の図書館 61(1) (通巻245) 日本図書館協会 2023.09 58p [3-57p] 26cm 内容: 関東大震災100年ー地震と図書館 帝国図書館と関東大震災 (長尾宗典), 関東大震災と東京帝国大学附属図書館 不要論から見る附属図書館の大学内における位置付け (河村俊太郎), 関東大震災による横浜市内の図書館の被災と復興 公共図書館を中心として (新藤透), 2月6日のトルコ・シリア大震災 図書館への影響と復興プロセスにおける図書館の役割 (エルトゥール・シメン, 須永和之 (訳)), 京都集書院150年 別の見かたで (堀奈津子), 我が国の公共図書館における障害者への健康医療情報提供サービスの展望 (三輪眞木子, 田村俊作, 野口武悟, 八巻知香子) 010.5

図書館雑誌 The Library Journal 117(10)-(11) (通巻1199-1200) 日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館協会 2023.10-11 2冊 26cm 内容: (1199) 令和5年度 (第109回) 全国図書館大会岩手大会への招待, おもいこみ (村上健治) (窓), 図書館関係地方交付税についての要望書を提出 (NEWS), 日本図書館協会目録委員会, 「目録の作成と提供に関する調査」のウェブページを公開 (NEWS), 「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言2022」について (NEWS), 「国立国会図書館オンライン」と「国立国会図書館サーチ」が統合・リニューアル予定 (NEWS), 「ユネスコ学校図書館宣言」改訂について (NEWS), 2024年度国立国会図書館予算概算要求額まとまる (NEWS), Library of the Year 2023の優秀賞・ライブラリアンシップ賞・特別賞の受賞機関が発表 (NEWS), 学校図書館の検閲と多様性 (こらむ図書館の自由), 第14期「認定司書」申請 (更新申請を含む) を受け付けます, (1200) 特集 表現する図書館員ー書くことのすすめ, 地域社会の中の書店と図書館 (新出) (窓), 第1回書店・図書館等関係者における対話の場を開催 (NEWS), 2024年 IFLA 大会

(ドバイ) の開催中止について (NEWS), 日本図書館協会児童青少年委員会が意見表明 (NEWS), 第43回 (2023年) 児童図書館員養成専門講座終了 (NEWS), 会員ポータルサイトを開設 (NEWS), 個人情報保護制度の一元化と図書館 (こらむ図書館の自由), 令和6 (2024) 年度予算における図書館関係地方交付税について (要望) 010.5

日本の参考図書 四季版 229 日本図書館協会 2023.11 [22p] 26cm 23.07-09 028

●国立国会図書館

カレントアウェアネス 357 国立国会図書館関西館図書館協力課 2023.09 32p 30cm 016.11

国立国会図書館月報 751 国立国会図書館 2023.09 32p 30cm 2023年11月号 海底二万里: プラトンのアトランティス (今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から), 歴史学者 島海靖氏に聞く 伊藤博文の文書: 研究と編纂を振り返って, 憲政資料室の新規公開資料から, 国際子ども図書館展示会「おいしい児童書」, “ノンポリ” と “非政治” (NDL Ngram Viewer を使ってみました 2), 博士論文デジタル化の片隅で (館内スコープ), 『蘭字 知られざる輸出茶ラベルの世界: 齋田記念館特別展』 (本屋にない本), 韓国国立中央図書館との第23回業務交流 (NDL Topics) 016.11

●協会報・館報

よむみる 372-373 恵庭市立図書館 2023.09-10
 情報図書館だより 403 江別市情報図書館 2023.11
 図書館通信 42(7)-(8) 509-510 登別市立図書館編集登別市立図書館 2023.10-11
 ハトダヨ 函館市中央図書館だより 89-90 函館市中央図書館 2023.10-11
 まなベル 生涯学習情報誌 2023年 (令和5年) 10月号 354 訓子府町教育委員会 2023.10
 ことばのうみ 宮城県図書館だより 75 宮城県図書館 2023.07
 花さき山 432-433 筑西市立明野図書館 2023.10-11
 としょかんこどもだより 158 新座市立中央図書館, 福祉の里図書館 [2023] 令和5年秋号
 図書館だより 473-474 新座市立図書館 2023.10-11
 三郷市図書館だより 320 三郷市立図書館 2023.10/2023.11 たからじまだより (248)
 West Library 千葉県立西部図書館だより 83 千葉県立西部図書館 2023.10
 知識は旅をする 78 千葉県立東部図書館 2023.10
 こすもす 市原市立中央図書館報 140 市原市立中央図書館 2023.10
 江東区立図書館情報誌 こたらいぶ (2023秋) 28 江東図書館 [2023.09]
 ひばり いなぎ図書館だより 208-209 稲城市立図書館 2023.10-11 内容: (208) 稲城市立図書館 50周年記念事業
 図書館だより 2023秋 268 調布市立図書館 023.09 内容: 特集1 図書館活用術, 特集2 「夜空のむこ

う」

- らいぶらりい 155 八王子市中央図書館 2023.10
 ひろば 日野市立図書館館報 290-291 日野市立中央図書館 2023.10-11
 神図協会報 284 神奈川県図書館協会 2023.10 内容：特集 川崎市立図書館新システムが稼働しました！、神奈川県図書館協会会長の就任にあたって
 さがみおのらいぶらりーにゆーす 102 相模原市立相模大野図書館 2023.10
 TOMTOM LIBRARY NEWS 80 相模原市立図書館 2023.10 内容：特集：山
 はしもと図書館報 Hi! 84 相模原市立橋本図書館 2023.10
 マーメイド通信 153 逗子市立図書館 2023.10
 パピルス 上越市立図書館だより 307-308 上越市立図書館 2023.10-11
 としょかんくん 長岡市立図書館子ども向け図書館情報誌（秋冬号）176 長岡市立中央図書館編 長岡市立中央図書館 2023.11
 図書館の窓から 長岡市立中央図書館館報（2023秋冬号）182 長岡市立中央図書館編 長岡市立中央図書館 2023.11
 マグちゃん通信 2023 12-2024 183 射水市大島絵本館 2023.12-2024.01 内容：絵本作家インタビュー 樋勝朋巳
 読書山梨 154 山梨県立図書館 2023.10 内容：令和5年度関東地区公共図書館協議会研究発表大会開催
 静岡県図書館協会会報 82 静岡県図書館協会 2023.08 内容：浜松市立中央図書館リニューアルオープン
 磐田市図書館だより 2023年10月号 223 [磐田市立中央図書館] [2023.09] 内容：セルフ貸出機のご案内
 図書館だより 224 磐田市立図書館 2023.11
 かけがわ図書館だより 225 掛川市立図書館 2023.11
 文化の丘 静岡県立中央図書館だより 374 静岡県立中央図書館 2023.09 内容：新県立中央図書館の設計に関する進捗状況をお伝えします
 ひまわりだより 415-416 貝塚市民図書館 2023.11-12
 ムクムク 451-453 四條畷市立四條畷図書館 [2023.09-11] 付：新着図書案内9月-11月
 としょかんだより 482-483 寝屋川市立中央図書館 2023.10-11
 みんなの本だな 図書館だより 660-661 芦屋市立図書館 2023.10-11
 しずく通信 234-235 猪名川町立図書館 2023.10-11
 しずくつうしん for KID'S 174-175
 用瀬図書館だより 185-187 鳥取市立用瀬図書館 2023.09-11
 図書館だより 356-357 岩国市中央図書館 2023.10-11
 としょかん通信 2023年あき号 326 久留米市立中央図書館編集 久留米市立中央図書館 [2023]
 佐賀市立図書館だより 139 佐賀市立図書館 2023 秋

*

東北文科大学・東北文科大学短期大学部図書館報 66
 東北文科大学・東北文科大学短期大学部図書館 2023.09

Book Mark 城西大学水田記念図書館報 166 城西大学水田記念図書館 2023.11

GAIDAI BIBLIOTHECA 237 京都外国語大学付属図書館・京都外国語短期大学付属図書館 2023.09

図書館報 195 西南学院大学 2023.10

●機関誌・団体報

国立情報学研究所ニュース：NII Today 100 国立情報学研究所 2023.09 23p 30cm 007

情報の科学と技術 73(10)-(11)「情報の科学と技術」

編集事務局 情報科学技術協会 2023.10-11 2冊 30cm 内容：特集 ハイブリッド型情報提供の実際、知のメディアとしての書物：アナログ vs. デジタル、公立図書館におけるハイブリッドな情報提供の実際、知的循環型社会における地域行政文書のゆくえ、博物館における資料と情報提供の実際：東京国立博物館を例に、後世に向けた資料保存の事例：放送アーカイブの現況と課題、マイクロフィルムの保存と提供、世界主要国の特許文献を日本語で一括検索可能なサービス「Japio-GPG/FX」（特許情報分析／解析／検索データベース 7）、著作権者不明等の場合の権利処理－令和5年著作権法改正における「時限利用裁定制度」の概要（連載 実務者のための著作権お悩み相談室 3）、『オープンアクセスジャーナルの実証分析』『デジタルアーカイブの新展開』（書評・新刊紹介）、「第48回情報科学技術協会賞」を受賞して 007

アート・ドキュメンテーション通信 135 アート・ドキュメンテーション学会 2023.09 25p 30cm NEWSLETTER OF JADS 内容：2023年度年次大会総括、第34回（2023年度）年次大会プログラム、総会議事録（抄録版）、第17回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞授賞式 007.5

LRG：ライブラリー・リソース・ガイド 45 アカデミック・リソース・ガイド 2023.11 155p 21cm 2023年秋号 内容：特集 文化資源の保全と図書館・博物館－越境して未来を考える、第1章 いまだからこそ考えたい 地域の文化資源と施設、なぜいま地域文化資源なのか－博物館法改正を契機として（佐久間大輔）、図書館から見た博物館法改正と今後（福島幸宏）、地域の社会教育ネットワークの必要性（森いづみ）、地域の文化政策の課題－図書館・博物館の現場で（呉屋美奈子）、地域文化資源戦略を支える法体系－ウェルビーイングへの貢献（佐々木秀彦）、全国の地域文化資源へのアクセスを保障するために（佐久間大輔、福島幸宏）、「ありふれた」文化資源機関の苦境－2023年の公共図書館（新出）、瀬戸内市民図書館における地域資料の活用（村上岳）、第2章 私たちの考える地域文化資源の保全と活用－提言とコメント、博物館・図書館等を基盤とした地域

文化資源の保全と活用をうながす政策提言－文化資源の「地域包括シェア」による地域づくり (ver.2 2023年8月24日), 第3章 道を探る, 歩みを進める, 今後の戦略 政策実現のために－アメリカの実践からまなべること (豊田恭子), 未来への責任を果たす博物館 地域の文化資源の保存と活用から考える (半田昌之), 政策提言のその先へ 文化・デジタル・イノベーション省の設置を (太下義之), 座談会 未来を構想する分散型自律組織, 限られた「条件」を図書館の「可能性」に変える発想 札幌市図書・情報館 (猪谷千香の図書館エスノグラフィー 24), コロナ禍が図書館利用に与えた影響を分析していたら, 脱線して思わぬ利用者層を見つけた－仕事のための空間としての図書館利用 (かたつむりは電子図書館の夢を見るか LRG 編 28), アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (arg) 業務実績 定期報告 010

ニューズレター 166 日本図書館文化史研究会 2023.10 12p 26cm 内容: 2023年度第2回研究例会のご案内, 東北帝国大学附属図書館の蔵書構築: 理科大学と法文学部 (小川知幸), 英語ではなぜ「図書館」といえばlibraryでありbibliothecaではないのか (杉本ゆか), 有山崧の第一線図書館観の変化 (三浦太郎), 青森市民図書館の歴史: 商業施設との複合化の一例として (山本和哉), 山形県における「追放図書」の実態 (石黒志保), 「イデオロギーと図書館: 日本の図書館再興を期して」(図書館文化史研究 文献紹介) 010.21

図書境界: The Library World 75(4) 433 日本図書館研究会 日本図書館研究会 2023.09 66p [219-284p] 26cm 内容: 特集 図書館DXの可能性: 上海市図書館学会「図書館雑誌」翻訳, 佐野友三郎: 台湾総督府時代を中心に (小黑浩司), テクノロジー時代における「場」としての公共図書館の価値に関する社会認識研究: ウェブサイトにおける図書館コメントのテキスト分析から (金武剛, 鍾静涵, 岡田俊介 (訳)), 仮想と現実の共存: メタバース視点でのスマートライブラリーシナリオの実現 (王嘩斌, 張磊, 櫻井待子 (訳)), 訂正 (75巻1号) 010.5

図書館学 123 西日本図書館学会 2023.09 58p 30cm 内容: 公立図書館は出版社・学会等からの回収要請を受けた所蔵図書をどのように考えて取り扱っているのか (安光裕子, 藪本知二), 学校図書館を啓発の場にしようと考えた本の紹介 (宍道勉), 「追放図書」にみる戦後公共図書館で追放された図書 (川戸理恵子), 優しくなければ, 図書館じゃない!! 柔軟かい憲法規範 公共圏に滲出する法的効果を帯びる「親切」理念: レジリエンス (柔軟な対応) を活かせる図書館の法規運用と解釈の方向を模索して (山本順一), 西日本図書館学会機関誌「図書館学」(no.1～121) 掲載記事の研究動向: 記事タイトルに対するテキストマイニングを用いた考察 (金井喜一郎) 010.5
会員通信 図書館九条の会 20 図書館九条の会 2023.

11 26p 30cm 内容: 別冊: NO.1～NO.20 内容一覧, 「みんなの図書館」掲載 COLUMN 図書館九条の会 一覧 010.6

日仏図書館情報学会ニュースレター 242 日仏図書館情報学会 2023.10 6p 30cm 010.7

日本図書館情報学会誌 69(3) 234 日本図書館情報学会 2023.09 42p [128-168p] 26cm 内容: システム統合と域内資料搬送網によって形成される地方の公共図書館ネットワーク 定量分析と制度分析を通じた考察 (森山光良), 「カリグラフィーのすべて: 西洋装飾写本の伝統と美」『オックスフォード 出版の事典』(書評), 日本図書館情報学会シンポジウム記録, 2023年度日本図書館情報学会春季研究集会の概要 010.7

もっと! TRC MARCpedia 7 図書館流通センターデータ部 2023.11 [4p] 30cm 内容: 分類・件名から図書を探そう! 014

多摩デポ通信 65 共同保存図書館・多摩 2023.11 10p 26cm 014.68

図書館車の窓 127 林田製作所 2023.11 8p 26cm 015.5

ヤングアダルトサービス研究会通信 287-288 ヤングアダルトサービス研究会 2023.10-11 2冊 26cm 015.93

AJU 通信あけのほし 275 (通巻14979) ログス点字図書館 2023.09 8p 30cm 015.97

にってんフォーラム 129 日本点字図書館 2023.10 16p 21cm 015.97

文庫だより 243 天理教点字文庫 2023.10 7p 30cm 015.97

としょかん 167 としょかん文庫・友の会 2023.11 19p 26cm 016.206

みんなの図書館 559-560 図書館問題研究会編集 教育史料出版会 (発行) 2023.10-11 2冊 21cm 内容: (559) 図書館問題研究会第69回全国大会の記録, 「図書館づくり支援委員会」を設立します (常任委員会), 2023年度図書館問題研究会の取り組み, 非正規雇用の図書館職員の待遇改善をもとめます (アピール 2023/7/10図書館問題研究会第69回全国大会), 自治体に必要な正規公務員を増やそう (アピール 2023/7/10図書館問題研究会第69回全国大会), (560) 特集 シニアと図書館, 図書館における高齢者の生涯学習支援事業例: 八王子千人塾 (上海雄一郎), 地域課題と向き合うことを通して (浅尾知弘), 「認知症にやさしい図書館」を目指して (永尾理恵子), 高齢者等の見守りも行う国東市「グリーンバッグサービス」(安部智美), 読む喜び 語る喜び (田中佳世子), 非対称な構造が招く加害性への自覚はあるか: ジャニーズ事務所の記者会見があらわにしたもの (情報と人間の交差点で 5), 新幹線より図書館を図書館には必要な金がかかるべきだ (こんな図書館はいやだ 24), [LRG 第44号 2023年夏号: 特集: 図書館×公園] (ほん・本・Book), 図書館ビ

ジョン学習会実施報告 (伊草祥子), 『私たちと戦後責任: 日本の歴史認識を問う』について: 図書館九条の会 (大塚敏高) 016.206

としょかんふれんず千葉市 76 としょかんふれんず千葉市 2023.11 12p 30cm 016.206

L/T江東区図書館友の会会報 秋号 82 江東区図書館友の会 2023.12 6p 30cm 016.206

川崎の図書館ともの会 41 川崎の図書館ともの会事務局 2023.10 [4p] 30cm 016.206

しぶほう 426 図書館問題研究会神奈川支部 2023.10 6p 26cm 016.206

神資研ニュース 552 神奈川県資料室研究会 2023.10 8p 30cm 内容: 出版・書店業界の現状と紀伊國屋書店の取り組み (第690回例会 講演会) 016.206

図書館とともだち 221 図書館とともだち・鎌倉 2023.09 12p 30cm 016.206

にしん図書館サポーターズ たより 22 にしん図書館サポーターズ 2023.10 [4p] 30cm 016.206

大阪支部報 544 図書館問題研究会大阪支部 2023.10 8p 26cm 016.206

堺市の図書館を考える会会報 39 堺市の図書館を考える会 2023.09 8p 30cm 016.206

ささやま図書館友の会会報 51 ささやま図書館友の会 2023.10 [4p] 30cm 016.206

図書館とまちづくり 157 図書館とまちづくり・奈良県・ネットワーク 2023.10 8p 30cm 016.206

友の会通信 39 図書館友の会・米子事務局 2023.11 8p 30cm 016.206

こどもとしょかん 179 東京子ども図書館 2023.10 33, xv 21cm 016.28

こどもの図書館 70(11) 児童図書館研究会 2023.11 16p 26cm 016.286

児図研東京支部ニュース 447-448 児童図書館研究会東京支部 2023.10-11 2冊 26cm 016.286

支部だより 441-442 児童図書館研究会神奈川支部 2023.09-11 2冊 26cm 016.286

Newsletter山梨子ども図書館 73 山梨子ども図書館 2023.10 6p 30cm 016.286

こどもの図書館あいち 392 児童図書館研究会愛知支部 2023.09 [8p] 26cm 016.286

児図研ヒロシマ 児童図書館研究会広島支部会報 56 児童図書館研究会広島支部 2023.08 6p 26cm 016.286

子どもと読書 462 親子読書地域文庫全国連絡会 2023.11-12 40p 21cm 2023/11・12 016.29

京庫連だより 2023/5-6 京都家庭文庫地域文庫連絡会 2023.10-11 2冊 26cm 付録: 本の紹介, かんたん工作 016.29

大子連ニュース 421-422 大阪府子ども文庫連絡会 2023.09-10 2冊 26cm 016.29

病院患者図書館 44(1/2) 94/95 日本病院患者図書館協会 2022.12 30p 26cm 016.54

学図研ニュース 452-453 学校図書館問題研究会 2023.

10-11 2冊 26cm 内容: (452) 特集 大会報告, (453) 特集 図書館の情報提供 017.06

学校図書館 876-877 全国学校図書館協議会 全国学校図書館協議会 2023.10-11 2冊 26cm 内容: (876) 特集 読書感想画指導の取り組み, 知的障害のある人の読書を支援するー代読と読み聞かせて生涯学習につながる読書経験を (教育時評 299), 本を通じて地域とつながる (キラリ! 司書教諭 229), 子どもと本に橋を架けるー調べ学習と探究的な学習への支援 (きらり! 学校司書 64), 〈実践研究〉読書指導と環境の改善(3)ー学校図書館賞の分析を实践に生かす, 第25回学校図書館出版賞, 公立学校における電子書籍サービスの導入と活用の現状 2023えほん50 書目一覧, (877) 特集 子供の読書の現状 (第68回学校読書調査報告), 知的障害のある人の読書を支援するー公共図書館の利用を進める図書館体験ツアー (教育時評 300), 教職員の思いを生かした学校図書館づくり (キラリ! 司書教諭 230), 図書館オリエンテーションを考える (きらり! 学校司書 65), 公益社団法人全国学校図書館協議会第43回理事会 議事録/2022年度事業報告 017.06

学校図書館速報版 2136-2138 全国学校図書館協議会 2023.10-11 3冊 26cm 内容: (2136) 全国SLA第16回定時総会を開催, 第54回学校図書館賞 推薦・応募要項, 全国SLAは事務局を移転しました!, (2137) 北海道, 九州で地区大会を開催, (2138) 学校図書館実践講座 ONLINE 開催中 「読書感想画」と「紙とデジタル」, 『学校図書館』セット販売, 「学校図書館図書整備第5か年計画」で措置された学校図書館予算は, 学校図書館整備に活用されているのでしょうか? 自治体 (市区町村) の地方交付税額を知るには? (教えて, 先輩 Q&A) 017.06

学図研ニュース・東京 371 学校図書館問題研究会東京支部 2023.09 14p 26cm 017.06

風 学校来ぶらり 93 学校図書館を考える会・丸亀 2023.11 8p 26cm 017.06

図書館教育ニュース (付録) 1638-1643 少年写真新聞社 2023.10-11 6冊 26cm 内容: (1638) 図書館発! 本から始まる作家と生徒の交流 (実践報告), (1639) 犬のしおり&お布団ブックカバー (すぐに作れる! 学校図書館で役立つ素材集 17), (1640) 今いる場所は「正解」なのか? (図書ニュー読書部 2023活動中 第6回), (1641) NIE タイム~読む・考える・伝える。そして, コミュニ UP! ~ (実践報告), (1642) クリスマスドーナツしおり (すぐに作れる! 学校図書館で役立つ素材集 18), (1643) ヒトと家族とゴリラと「本バザ」(図書ニュー読書部 2023活動中 第7回) 017.1

小学図書館ニュース (付録) 1306-1311 少年写真新聞社 2023.10-11 6冊 26cm 内容: (1306) ワクワクする学校図書館を日指して (実践報告), 017.2

大学の図書館 42(8)-(9) 597-598 大学図書館研究会 編集 大学図書館研究会 2023.08-09 2冊 26cm

内容：(597) 特集 地域グループのユニークな取り組み、(598) 特集 あれから3年、コロナを今振り返る 017.706

専門図書館 314 [専門図書館協議会] 機関誌委員会
専門図書館協議会 2023.09 56p 26cm 内容：特集 分類、分類の現代的意義 基本概念と変化する文脈（山本昭）、日本十進分類法（NDC）での分類：専門図書館における利用の工夫（藤倉恵一）、アジア研究図書館の書架分類とアジア資料の分類の動向について（徳原靖浩）、蔵書の再構築と独自分類の導入について（大隅一志、石田心、泉佳奈）、流通経済研究所資料室の分類について（金井理華）、EDIT TOWNブックストリート 9つの「世界の読み方」（和泉佳奈子）、ウェブアクセシビリティって何？（ごぞんじですか？ 132）（山田肇）、阪急文化財団池田文庫（専門図書館を見る 132）、『さがす・読む・伝える はじめての医学系情報』『電子図書館・電子書籍サービス調査報告2022 これまでの10年とこれからの10年』（資料紹介） 018.06

医学図書館 70(3) 日本医学図書館協会 日本医学図書館協会 2023.09 56p [139-193p] 30cm 内容：医学用語シソーラス第10版 改訂のポイント（中野将史）、医療・健康情報をより多くの人の手に：医療・健康情報委員会の取り組み（西さやか）、2022年度日本医学図書館協会病院部会主催見学会参加記：国立保健医療科学院（下山朋幸）、2022年度 協会賞・奨励賞、名古屋大学博物館と大阪府公文書館で開催された各資料展示会見学報告（菅修一） 018.49

ほすびたるらいぶらりあん 48(1) 172 日本病院ライブラリー協会 日本病院ライブラリー協会 2023.10 84p [1-84p] 26cm 通巻172号 内容：特集 日本病院ライブラリー協会2023年度第1回研修会、テーマ：病院図書室が飛躍するために、[特別講座]「日立」と「HITACHI」と「ひたちの病院」、[基調講演] 特定行為に係る看護師の研修制度と資格取得に向け施設環境に求めること 018.49

博物館研究 58(10)-(11) 665-666 日本博物館協会 2023.10-11 2冊 30cm 内容：(665) 特集「どうする動画配信」、(666) 特集「文化財修理の実状」 069

印刷博物館ニュース Printing Museum News 90 凸版印刷 印刷博物館 2023.09 [8p] 30cm 内容：「地図と印刷」展図録が「第56回造本装幀コンクール」にて受賞（日本図書館協会賞） 749

文藝家協会ニュース 833-834 日本文藝家協会 2023.10-11 2冊 26cm 906

●出版・著作権

JRAC通信 102 JPIC読書アドバイザークラブ 2023.11 12p 30cm 019

読書推進運動 670-672 読書推進運動協議会 2023.09-11 3冊 26cm 内容：(670) 全国図書館大会岩手大会開催へ 久しぶりの対面開催！ イーハートープで図書館を語りあう、(671) 付録：2023・第65回 こ

どもの読書週間行事報告 019

コピライト 750-751 著作権情報センター 2023.10-11 2冊 30cm 内容：(750) 解説 令和3年著作権法改正による図書館等の公衆送信サービスについて・村井麻衣子 021.2

JASRAC NOW 789-790 日本音楽著作権協会 2023.10-11 2冊 30cm 021.23

JPIC NEWSLETTER 248-249 出版文化産業振興財団（JPIC） 2023.10-11 2冊 30cm 023

アクセス 地方小出版情報誌 561-562 地方・小出版流通センター 2023.10-11 2冊 26cm 内容：(561) いわゆる“ひとり出版者”「高安書房」～出版界未経験者の立上げ記 023

書協 394-395 日本書籍出版協会 2023.09-10 2冊 26cm 内容：(394) 出版イベント情報サイト ブックイベントナビ11月公開予定、生成AIに関する共同声明（2023年8月17日） 023

子どもと科学よみのも 535-536 科学読物研究会 2023.10-11 2冊 26cm 023.09

こどもの本 614-615 日本児童図書出版協会 2023.11-12 2冊 21cm 023.09

子どもの本棚 661 日本子どもの本研究会 2023.11 48p 21cm 023.09

日本古書通信 1131-1132 日本古書通信社 2023.10-11 2冊 26cm 024.8

●生涯学習・地方自治ほか

社会教育 929 日本青年館「社会教育」編集部 2023.11 96p 26cm 読書の秋、図書館の秋～知の基盤の読書と図書館の役割をさぐる～、図書館は人と本を結ぶ？～図書館サービスのモデルとAI/DX時代の役割（野末俊比古）、知の地域づくりを求めて 本の学校（鳥取県米子市）の29年間の歩み（前田昇）、「学びあいの居場所」：まちライブラリー、マイクロ・ライブラリー（磯井純充）、これからの社会教育：知識循環型生涯学習へのチェンジ（前川道博）、タイパとコスバと図書館総合展（長沖竜二）、川崎市立宮前図書館 図書館でシニア向けのセミナーを開催（連載 社会教育をめぐる新たな動き 19） 379

住民と自治 727 自治体問題研究所 2023.11 50p 26cm 指定管理者制度の現況と到達点、課題－制度創設20年を踏まえて－（角田英昭） 318



図書館関係 雑誌記事索引

002.7 情報検索

調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス
鈴木宏宗 図書館員の本棚 図書館雑誌 117(11)
p709 2023.11

007.5 デジタルアーカイブ

デジタルアーカイブの新展開 上岡真土 図書館員の本棚 図書館雑誌 117(10) p653 2023.10

010 図書館、図書館学

Library of the Year 2023の優秀賞・ライブラリアンシップ賞・特別賞の受賞機関が発表 NEWS 図書館雑誌 117(10) p622-623 2023.10

010 図書館情報学

「文献宇宙」の思潮を今に語り継ぐー図書館学の祖と称されるピアス・パトラーのこと 天谷真彰 北から南から 図書館雑誌 117(10) p660-661 2023.10

010.1 図書館の自由

学校図書館の検閲と多様性 鈴木啓子 こらむ図書館の自由 図書館雑誌 117(10) p623 2023.10

個人情報保護制度の一元化と図書館 松井正英 こらむ図書館の自由 図書館雑誌 117(11) p679 2023.11

010.2 図書館ー歴史、事情

京都集書院150年 別の見かたで 堀奈津子 投稿 現代の図書館 61(1) p37-44 2023.10

010.2274 図書館事情ートルコ

2月6日のトルコ・シリア大震災 図書館への影響と復興プロセスにおける図書館の役割 エルトゥールル・シメン、訳：須永和之 関東大震災100年ー地震と図書館 現代の図書館 61(1) p23-36 2023.10

010.2349 図書館ーポーランド

避難民危機におけるポーランドの図書館の対応 リリアンナ・ナレヴァイスカ、マウゴジャータ・ドウトカ 訳 北から南から 図書館雑誌 117(11) p710-711 2023.11

010.6 国際図書館連盟

2024年IFLA大会（ドバイ）の開催中止について NEWS 図書館雑誌 117(11) p677 2023.11

世界図書館情報会議（WLIC）：第88回国際図書館連盟（IFLA）年次大会終了 三浦太郎 NEWS 図書館雑誌 117(10) p621 2023.10

010.6 全国図書館大会

全国図書館大会の全体紹介 佐藤一男 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p627 2023.10

第1分科会／公共図書館 “つながる図書館” 伊藤佳子 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p628 2023.10

第2分科会／大学・短大・高専図書館 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方 吉植庄栄 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p629 2023.10

第3分科会／学校図書館 学校図書館活動の活性化 及川浩純 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p630 2023.10

第4分科会／児童サービス(1) 子どもと本とのよい出会いを 松田恵子 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p631 2023.10

第4分科会／児童サービス(2) 読書が子どもに与える影響 富岡和 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p632 2023.10

第5分科会／図書館情報学教育 日本の図書館情報学教育の現状：「日本の図書館情報学教育」調査から 大谷康晴 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p633 2023.10

第6分科会／著作権 令和3年改正著作権法の施行後の動向 小池信彦 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p634 2023.10

第7分科会／図書館の自由 戦争と図書館 千錫烈 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p635 2023.10

第8分科会／障害者サービス(1) SDGsと図書館、誰も取り残さないインクルーシブな図書館を目指して 野村美佐子 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p636 2023.10

第8分科会／障害者サービス(2) 最新のICT技術・アクセシブルな電子図書館を活用して目指す、障害者の読書環境 椎原綾子 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p637 2023.10

第9分科会／認定司書事業 日本図書館協会認定司書事業のこれまでとこれから 松本直樹 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p638 2023.10

第10分科会／災害と図書館 災害と図書館 末次健太郎 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p639 2023.10

第11分科会／出版流通 地方における書店の役割と図書館 大場博幸 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p640 2023.10

第12分科会／多文化サービス 暮らしの中の情報と多文化サービス 浜口美山紀 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p641 2023.10

第13分科会／非正規雇用職員 指定管理者・委託で働く非正規雇用職員 小形亮 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p642 2023.10

第14分科会／市民と図書館 住民が取り組む図書館職員問題 池沢昇 令和5年度（第109回）全国図書館大会岩手大会への招待 図書館雑誌 117(10) p643 2023.10

010.6 日本図書館協会

会員ポータルサイトを開設 NEWS 図書館雑誌 117(11) p677 2023.11

「地域図書館団体との協力体制強化を！」「議論の前提となる正確な統計の公表を」 長田和彦、本山雅一 声ー各地の代議員から 7 図書館雑誌 117(11) p708 2023.11

図書館関係地方交付税についての要望書を提出 NEWS 図書館雑誌 117(10) p621 2023.10

010.7 研究法、指導法、図書館学教育、職員の養成
日本図書館協会児童青少年委員会が意見表明 NEWS
図書館雑誌 117(11) p677 2023.11

010.7 研修(図書館員)
令和5年度新任図書館長研修 文部科学省 霞が関だより 240 図書館雑誌 117(11) p696-697 2023.11

010.77 司書課程、司書講習・研修
第43回(2023年)児童図書館員養成専門講座終了 NE
WS 図書館雑誌 117(11) p677 2023.11

011 図書館行政
令和6(2024)年度予算における図書館関係地方交付税に
ついて(要望) 公益社団法人日本図書館協会 理事
長 植松貞夫 資料 図書館雑誌 117(11) p712-
713 2023.11

013.1 図書館員
医学図書館員として、興味を持って進めてきたこと 城
山泰彦 特集 表現する図書館員-書くことのす
め 図書館雑誌 117(11) p690-691 2023.11
現場で感じたモヤモヤを「見える化」して-認定司書オ
リジナル論文著作体験記- 大江ひとみ 特集 表
現する図書館員-書くことのすめ 図書館雑誌
117(11) p686-687 2023.11
司書の仕事を書くこと 高田高史 特集 表現する図書
館員-書くことのすめ 図書館雑誌 117(11)
p694-695 2023.11
専門図書館で書くということ-アジア経済研究所図書館
の情報発信- 坂井華奈子 特集 表現する図書館
員-書くことのすめ 図書館雑誌 117(11) p688
-689 2023.11
第14期「認定司書」申請(更新申請を含む)を受け付け
ます 日本図書館協会認定司書事業委員会 図書館
雑誌 117(10) p648-651 2023.10
「小さな気付き」を書いて残すこと 伊藤民雄 特集 表
現する図書館員-書くことのすめ 図書館雑誌
117(11) p692-693 2023.11
図書館員が執筆するということ 呑海沙織 特集 表現
する図書館員-書くことのすめ 図書館雑誌 117
(11) p682-685 2023.11

014.3 目録法
日本図書館協会目録委員会、「目録の作成と提供に関する
調査」のウェブページを公開 NEWS 図書館雑誌
117(10) p621 2023.10

015 図書館サービス
おもいこみ 村上健治 窓 図書館雑誌 117(10) p620
2023.10

015.2 レファレンス ワーク
生成AI時代のレファレンスサービスとは 相場洋子 れ
ふあれんす三題断 306 国際教養大学中嶋記念図書
館の巻 図書館雑誌 117(11) p704-705 2023.11
節目の年に、図書館のあれこれについて調べる。井関和
彦 れふあれんす三題断 305 山口県立山口図書館
の巻 図書館雑誌 117(10) p654-655 2023.10

015.97 障害者に対するサービス

我が国の公共図書館における障害者への健康医療情報提
供サービスの展望 三輪真木子、田村俊作、野口武
悟、八巻知香子 投稿 現代の図書館 61(1) p45
-57 2023.10

016.11 国立国会図書館
2024年度国立国会図書館予算概算要求額まとまる NE
WS 図書館雑誌 117(10) p622 2023.10
「国立国会図書館オンライン」と「国立国会図書館サー
チ」が統合・リニューアル予定 NEWS 図書館雑
誌 117(10) p622 2023.10
帝国図書館と関東大震災 長尾孝典 関東大震災100年-
地震と図書館 現代の図書館 61(1) p3-8 2023.10

016.2 公共図書館
「IFLA-UNESCO 公共図書館宣言2022」について NEWS
図書館雑誌 117(10) p622 2023.10

016.2137 公共図書館-神奈川県
関東大震災による横浜市内の図書館の被災と復興 公共
図書館を中心として 新藤透 関東大震災100年-地
震と図書館 現代の図書館 61(1) p15-22 2023.10

017 学校図書館
学校図書館の役割を問い直す 高橋恵美子 日本図書館
協会学校図書館部会第51回夏季研究集会東京大会
図書館雑誌 117(11) p698-702 2023.11
「ユネスコ学校図書館宣言」改訂について NEWS 図
書館雑誌 117(10) p622 2023.10

017.7 大学図書館
関東大震災と東京帝国大学附属図書館 不要論から見る
附属図書館の大学内における位置付け 河村俊太郎
関東大震災100年-地震と図書館 現代の図書館 61
(1) p9-14 2023.10

018.367 ブライドハウス東京レガシー
「過去」を収集し、次世代へと継承する LGBTQ コミュ
ニティ・アーカイブの構築をめざして 山縣真矢
小規模図書館奮戦記 その305 ブライドハウス東京
LGBTQ コミュニティ・アーカイブ&ライブラリー
図書館雑誌 117(10) p652 2023.10

019.5 読書
令和4年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について
文部科学省 霞が関だより 239 図書館雑誌 117
(10) p644 2023.10
和歌山県内の取り組み 令和4年度「読書活動推進事業」
子どもの読書に対するきかけづくり 霞が関だより
239 図書館雑誌 117(10) p644-647 2023.10

024 図書の販売
第1回書店・図書館等関係者における対話の場を開催
NEWS 図書館雑誌 117(11) p677 2023.11
地域社会の中の書店と図書館 新出 窓 図書館雑誌
117(11) p676 2023.11

028 紹介本
『お金の流れで読み解く ビートルズの栄光と挫折』『弱
い力でも使いやすい頼もしい文具たち』『理数探究の
考え方』『マッピング思考』北嶋大祐、前田幸子、
米田渉、古澤理恵 図書館員のおすすめ本 83 図

書館雑誌 117(11) p706-707 2023.11

『監視カメラと閉鎖する共同体 敵対性と排除の社会学』
『自分をたいせつにする本』『差し出し方の教室』『文
明開化に抵抗した男佐田介石 1818-1882』新屋朝
貴, 高橋和加, 村上恭子, 山下樹子 図書館員のお
すすめ本 82 図書館雑誌 117(10) p658-659
2023.10

090 稀書

日本で唯一の「山岳図書館」 神長幹雄 ウチの図書館お
宝紹介! 235 公益社団法人日本山岳会図書室 図
書館雑誌 117(10) p656-657 2023.10

910.6 早稲田大学国際文学館

呼吸をはじめたライブラリー 高橋由里子 小規模図書
館奮戦記 その306 早稲田大学国際文学館(村上春
樹ライブラリー) 図書館雑誌 117(11) p703
2023.11

事務局カレンダー

*○印の日が事務局のお休みです。

■2024年1月

日	月	火	水	木	金	土
*	①	②	③	④	5	⑥
⑦	⑧	9	10	11	12	⑬
⑭	15	16	17	18	19	⑳
㉑	22	23	24	25	26	㉔
㉖	29	30	31	*	*	*

■2024年2月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	③
④	5	6	7	8	9	⑩
⑪	⑫	13	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	㉓	㉔
㉖	26	27	28	29	*	*

図書館雑誌／2月号予告 (Vol.118 No.2) 定価1026円 2月20日発行予定

令和5年度(第109回)全国図書館大会岩手大会ハイライト 内容=全体会等の模様から、分科会の様子をそれぞれ報告するとともに、大会参加者の感想等を加えて、第109回大会開催の概要をまとめてお届けします。このほか、〈れふあれんす三題噺⑧富士見市立中央図書館〉富士見市立中央図書館のレファレンスー覚え間違い、思い違い(長谷川実)、〈小規模図書館奮戦記⑧独立行政法人国際協力機構図書館(JICA 図書館)〉国際協力の専門図書館「夢物語」への挑戦(本村洋)等の連載記事ほかを掲載してお届けします。

◆『図書館雑誌』の表紙は、3月号までの予定で「猫」をテーマにお送りしていますが、我が家でも生後3か月くらいの保護猫を飼い始めました。子猫は、やんちゃで困らせられることもあります。圧倒的に可愛い。さすが長年にわたり、人間のパートナーとして愛されてきた動物です。昨年11月号で1200号を迎えた『図書館雑誌』も、図書館に関わる人にとって長く愛されるパートナーになれるように。(委員長・松本哲郎)

◆昨年、日図協では非正規職員の処遇改善をめぐる動きがありました。一つは処遇改善を地方自治体の首長に文書で働きかけたこと、もう一つは処遇改善のために関係団体等と意見や情報を交換するため連絡会を設置したことです。今年は、こうした活動が世間で注目され、図書館職員のみならず公務部門で働く専門的職員の労働問題の改善につながることを期待したいです。(青柳英治)

◆2024年が幕を開けました。毎年、人も物も平等に年を重ねますが、私の勤務する図書館も年を重ねて今年50周年を迎えます。半世紀の歴史の中で、図書館は変わることなく知識の拠点としての役割を果たしてきました。過去の図書館員の取り組みから気付きを得ることも少なくありません。今年は節目の年として、地域と図書館のつながりを意識し、過去と未来をつなぐ架け橋となるよう、図書館員として貢献したいです。

(岩永知子)

◆昨年途中から編集委員に名を連ねており、新春のご挨拶は初となります。経験を積んだ方々が多い中でどれだけ役に立っているかはわかりませんが、図書館にも『図書館雑誌』にも常に新たな視点は必要だろうと思います。伝統と革新をともに支える雑誌であれるよう、微力を尽くしてまいります。読者の皆様からのさらに新しい視点・情報もお待ちしております！ 今年もよろしくお願いします。(宇野亮一)

◆昨年、コロナ禍がようやく収束し



たかと思うと、インフルエンザ流行の季節になりました。まだまだ注意すべき状況が続きます。

コロナ後の大学や図書館の状況を見ると、対面授業が戻ってきたことや入館者数の回復傾向など、ひとりの移動と交流が可能になりました。

今年は、図書館などの文化施設の見学を考えています。(中村保彦)

◆最近の優れた学校建築を連続訪問する機会がありました。おのおのの学校図書館は、生徒・教職員の目に常時触れる校舎の中心に置かれ、施設設備とともに学校教育の変容を象徴する場への期待が読み取れるものでした。その上でさらに心に残るのは、いずれの場にもそれを受け止め体現する「人」の存在。そんな静かな熱量を伝え続けられたらと願う新年です。(長谷川優子)

◆父には本の収集癖があったので、昔から我が家には本があふれていました。

まだネットが普及しておらず、ゲームが禁止されていた私にとって、暇つぶしの手段と言えば読書。少し背伸びした読書がしたいと思ったとき、好奇心を満たしてくれたのが、父の文庫本でした。

昨年、父が亡くなり、大部分の蔵書は処分することになってしまいましたが、あのとき感じた読書の楽しさは今でも私の中に残っています。

(宮原柔太郎)

◆新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、昨年は、久しぶりに全国図書館大会や図書館総合展が対面で開催されました。オンラインは便利ですが、やはり実際に目にしたり、その場の雰囲気を感じることやその場に一緒にいる方との交流は代え難いものがあると感じます。ここ数年、気になっている図書館に行ってみたかと思いつつ、なかなか足を向けられずにいましたが、今年こそは行ってみたいと思います。(米山 薫)

……………編集スタッフより……………

◆自宅近くの団地前でテレビドラマの撮影があり、エキストラを募集していた。群衆や付近を通る人ということでランダムに募集されるものと思っていたが、中高年男性はこういう服装でとか、割と指定があるものなんですね。くだんのテレビドラマは見えていないが、たまに行く地域の図書館がロケ場所に隣接しているので、こちらも映ったのかとか少し気になる。(秦 秀文)

◆植物園の夜間ライトアップイベントに参加しました。入園者全員、薔薇の苗をお土産にもらえるということで、喜んでもらって帰ったのですが、どうやら大きくなるタイプらしく、ベランダでは育てきれそうにありません。なので協会会館の前の花壇？に植えてもらいました。きれいな薔薇が咲くのを夢見つつ、毎日眺めています。(川下美佐子)

◆友人が小説アプリのコンテストに入選し、作品の連載を始めました。スマートフォンの画面上で横書きの文章を眺めながら、コミカライズや紙媒体での出版などといった展開はあるのか、期待しているところです。本年も読者の皆様に図書館をめぐる記事やニュースをお届けしてまいります。ご高覧のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。(星川智隆)